

血液製剤使用状況等調査票 2024年度アンケート集計

長野県献血推進協議会輸血療法部会
事務局 長野県健康福祉部薬事管理課
長野県赤十字血液センター
学術情報・供給課 小野 綾香



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

調査の概要

1. 調査目的

長野県内の医療機関における輸血業務の実態を把握し、血液製剤の安全かつ適正な使用の推進に資する。

2. 調査対象施設

2023年度に長野県赤十字血液センターから輸血用血液製剤の納入実績があった長野県内の医療機関

3. 調査対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日

4. 回収率 63%(69施設／110施設)

N数は設問毎の回答施設に応じて変化する。

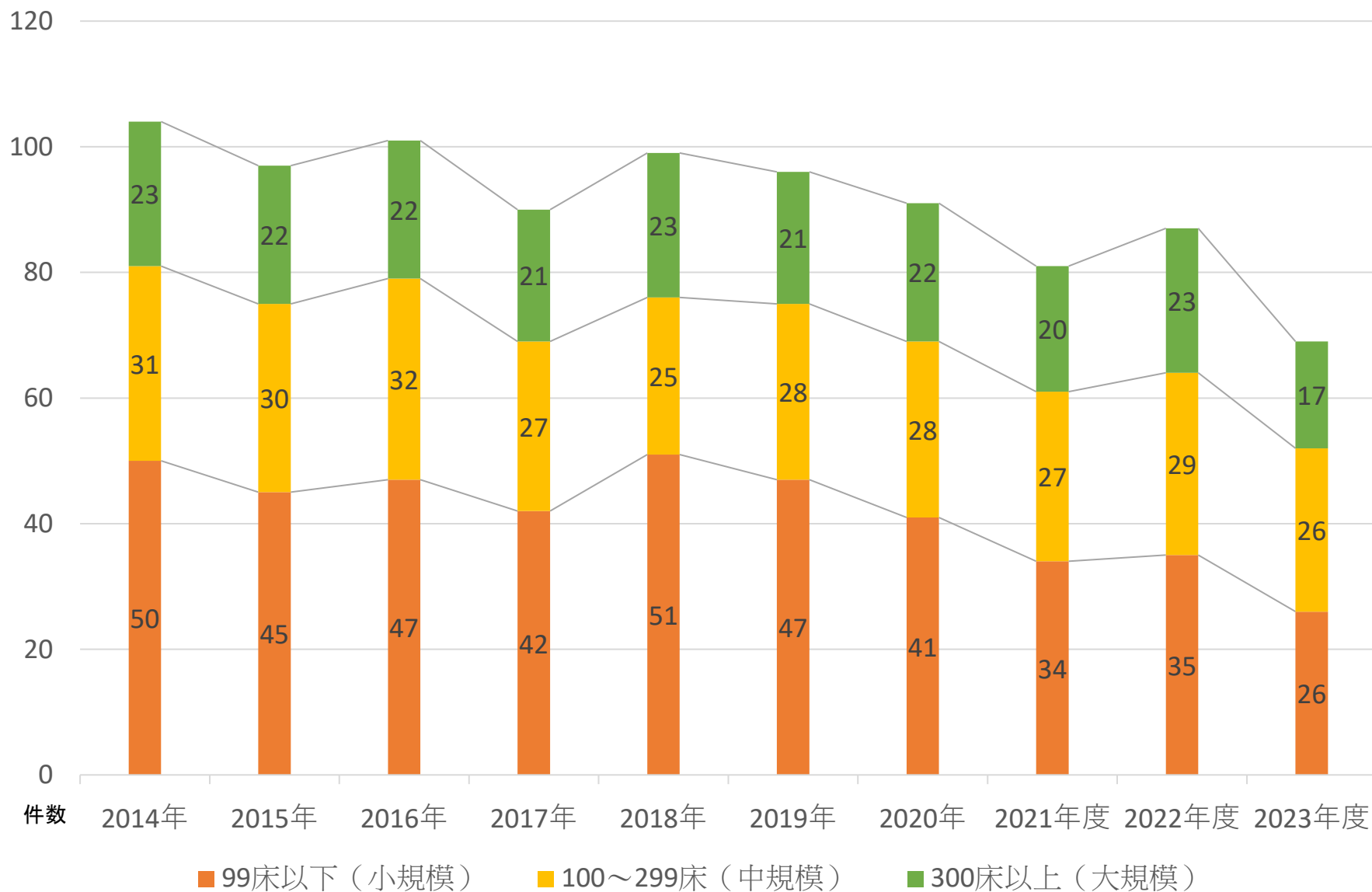
回答医療機関概要

施設の種類	施設数
大学病院	1
国立病院機構	3
公共・自治体病院	16
厚生連病院	9
日赤病院	5
医療法人関連病院	23
個人病院	1
診療所	8
その他	3
合計	69

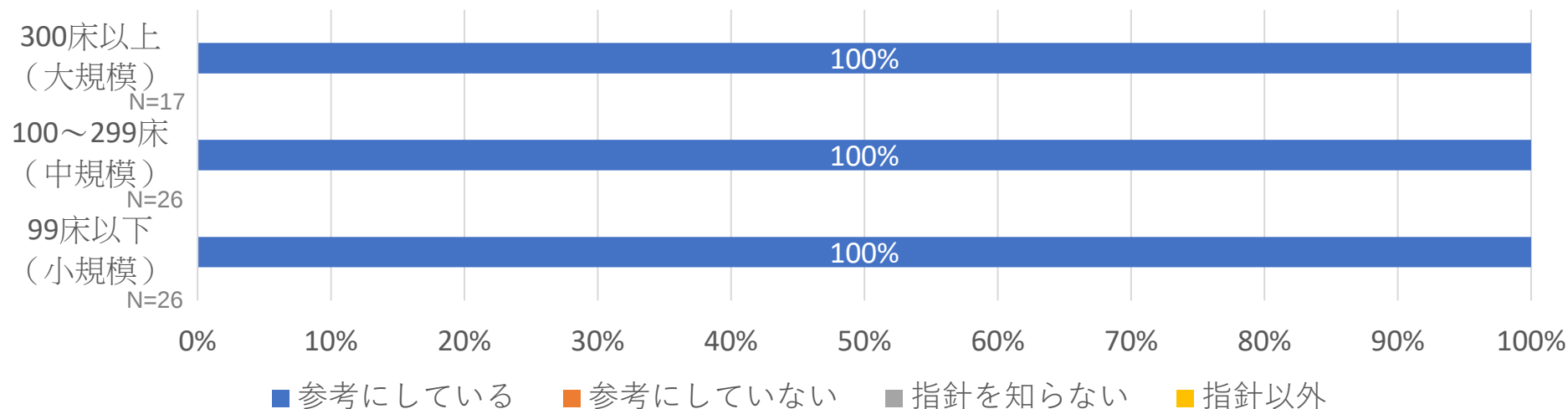
病床数	施設数	規模	施設数
0	4	小規模	26
1～19	4		
20～99	18		
100～199	20	中規模	26
200～299	6		
300～499	15	大規模	17
500以上	2		
合計	69	合計	69

調査対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

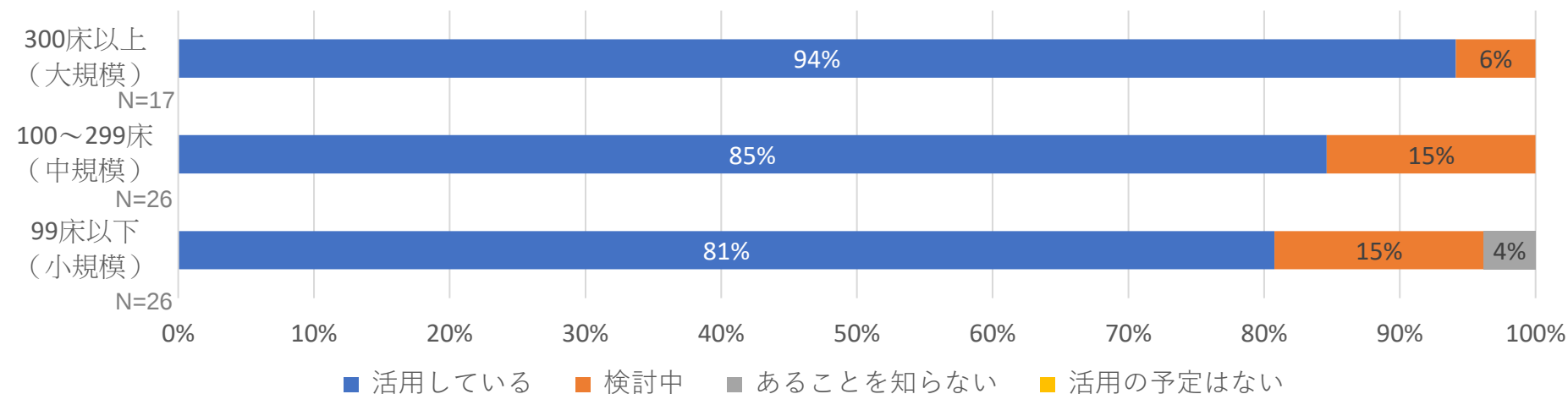
回答医療機関の内訳



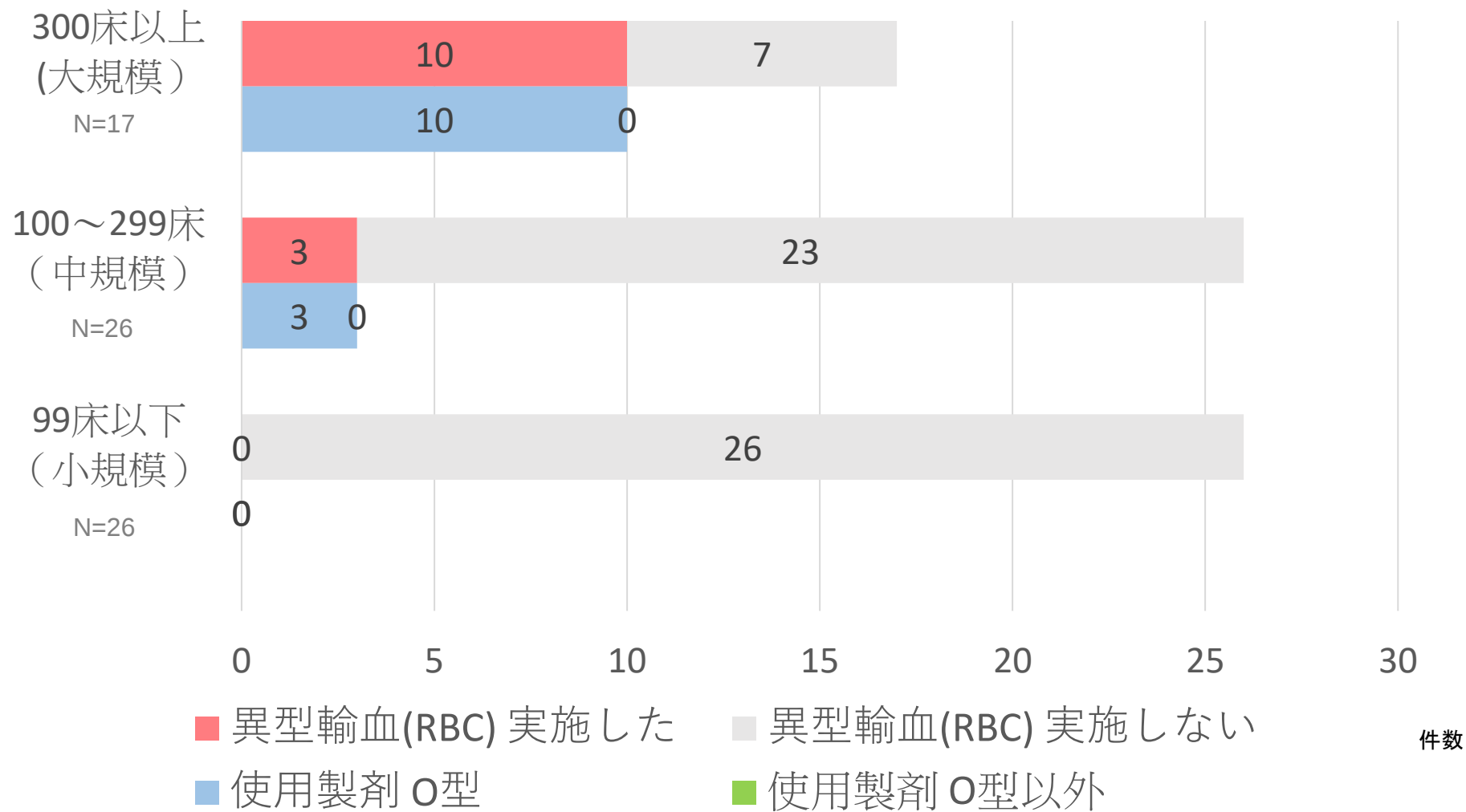
Q1. 厚生労働省の 「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」について



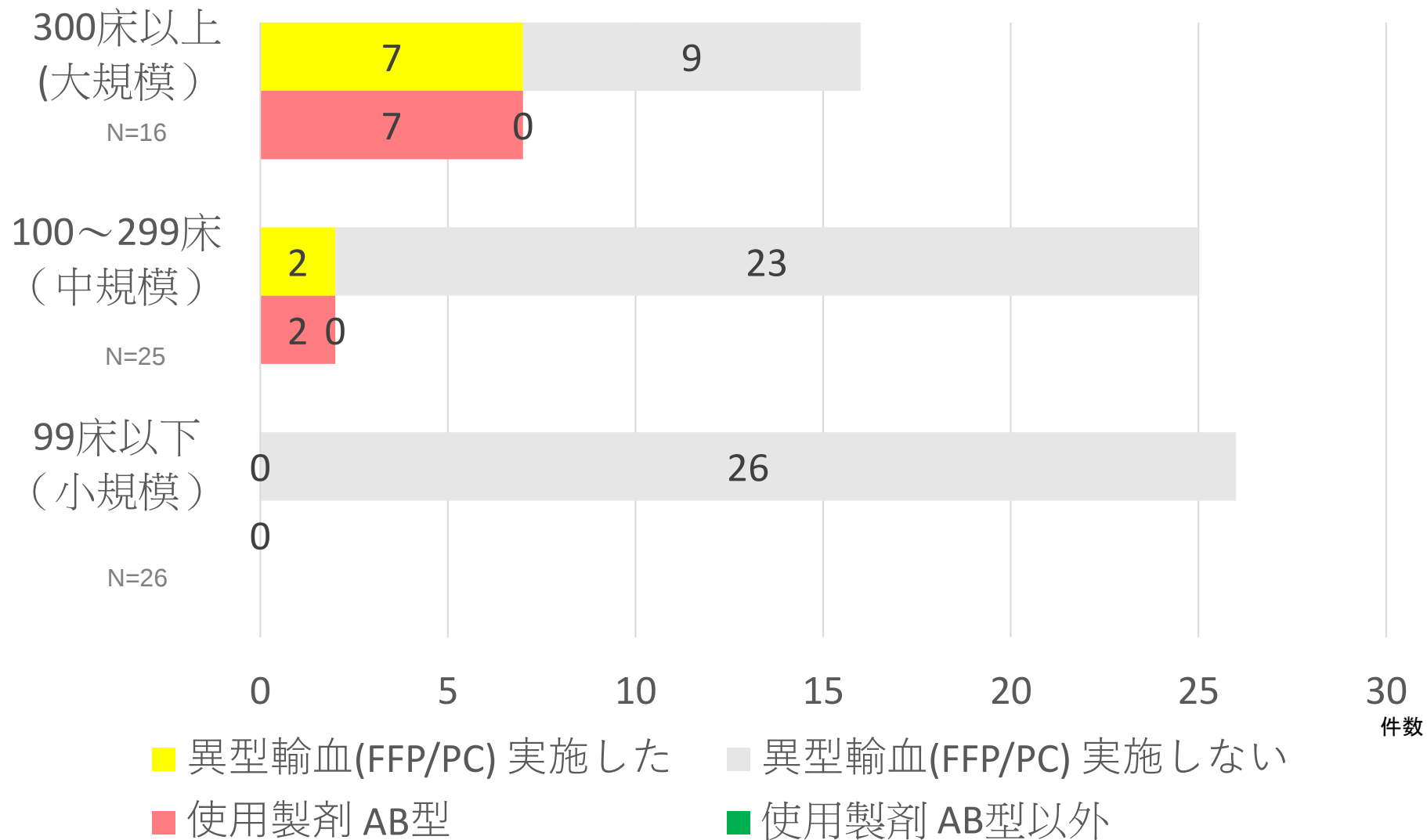
Q2. 「長野県輸血療法マニュアル」の活用について



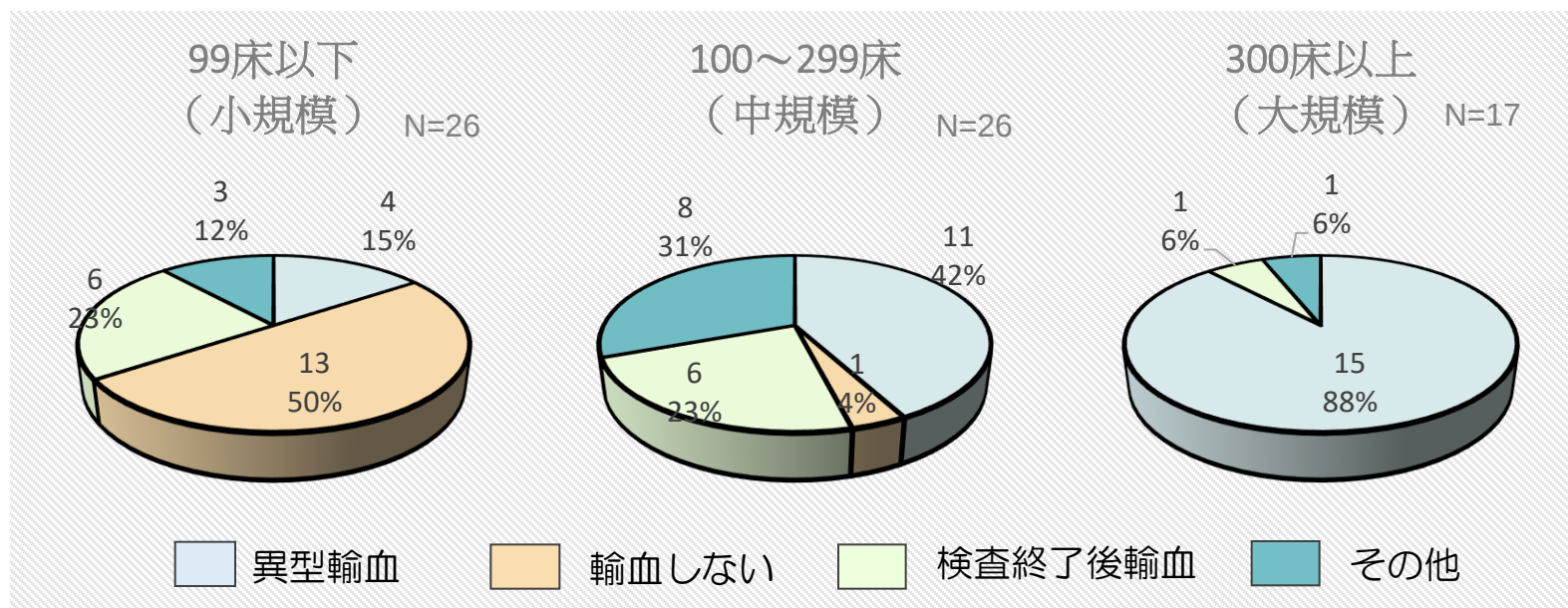
Q3.緊急時、異型輸血の実施状況について(赤血球製剤)



Q3.緊急時、異型輸血の実施状況について(血漿・血小板製剤)

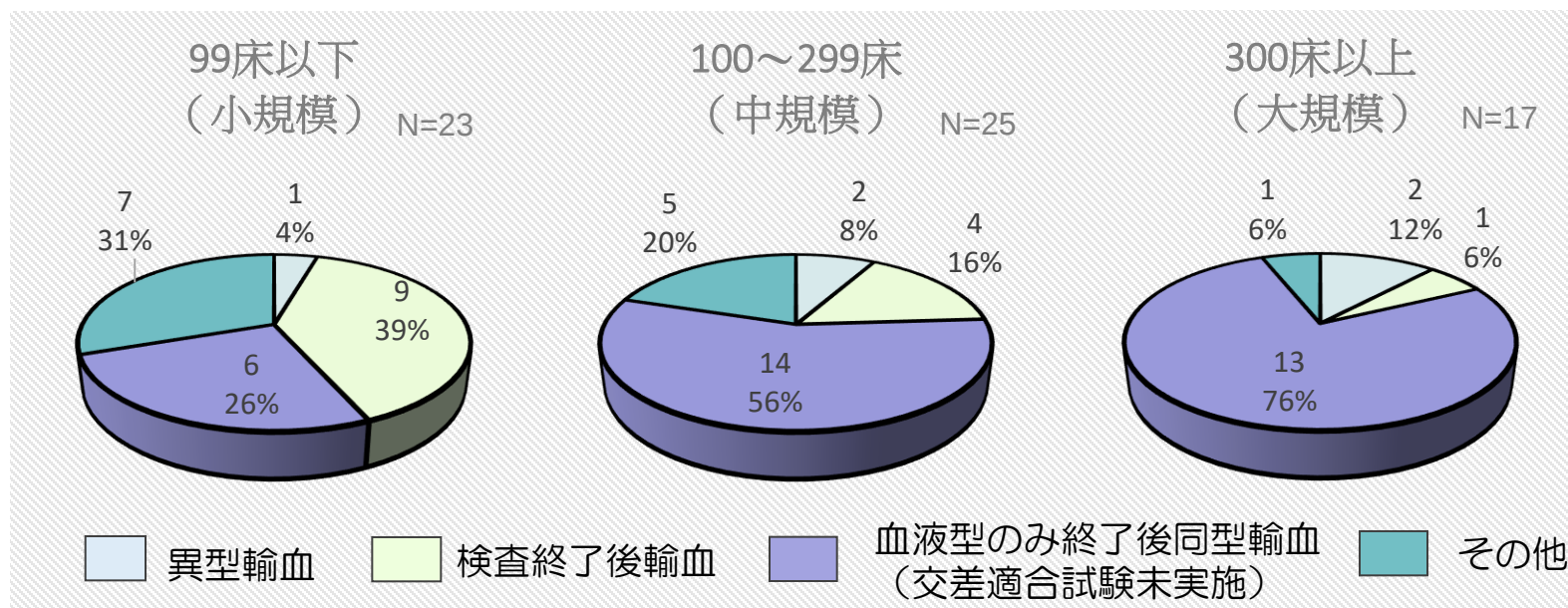


Q4.緊急輸血を直ちに開始する場合（血液型・交差適合試験ができない）の対応



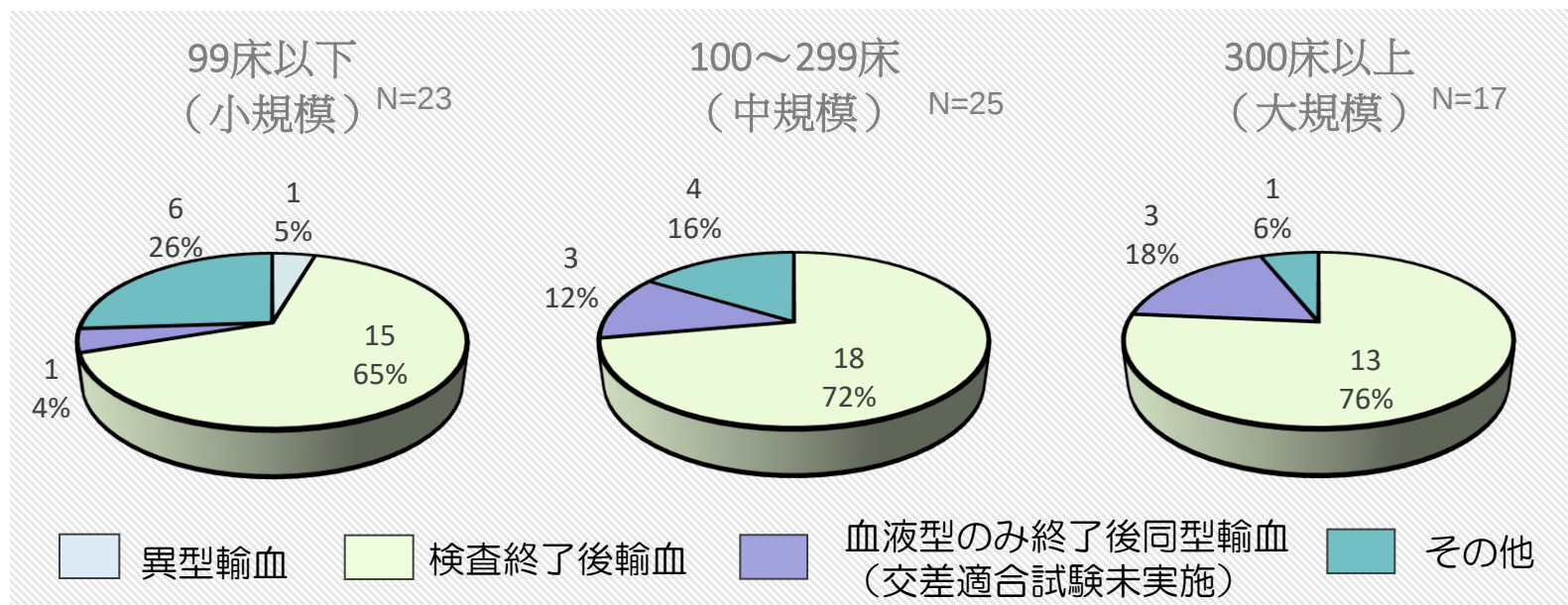
その他理由	輸血と交差適合試験を同時進行する	転院	院内在庫ないため	検査外注のため	緊急輸血を想定していない
99床以下	1	1	0	1	0
100～299床	1	1	5	0	1
300床以上	0	0	1	0	0

Q5.緊急輸血開始までに10～20分程度待てる場合の対応



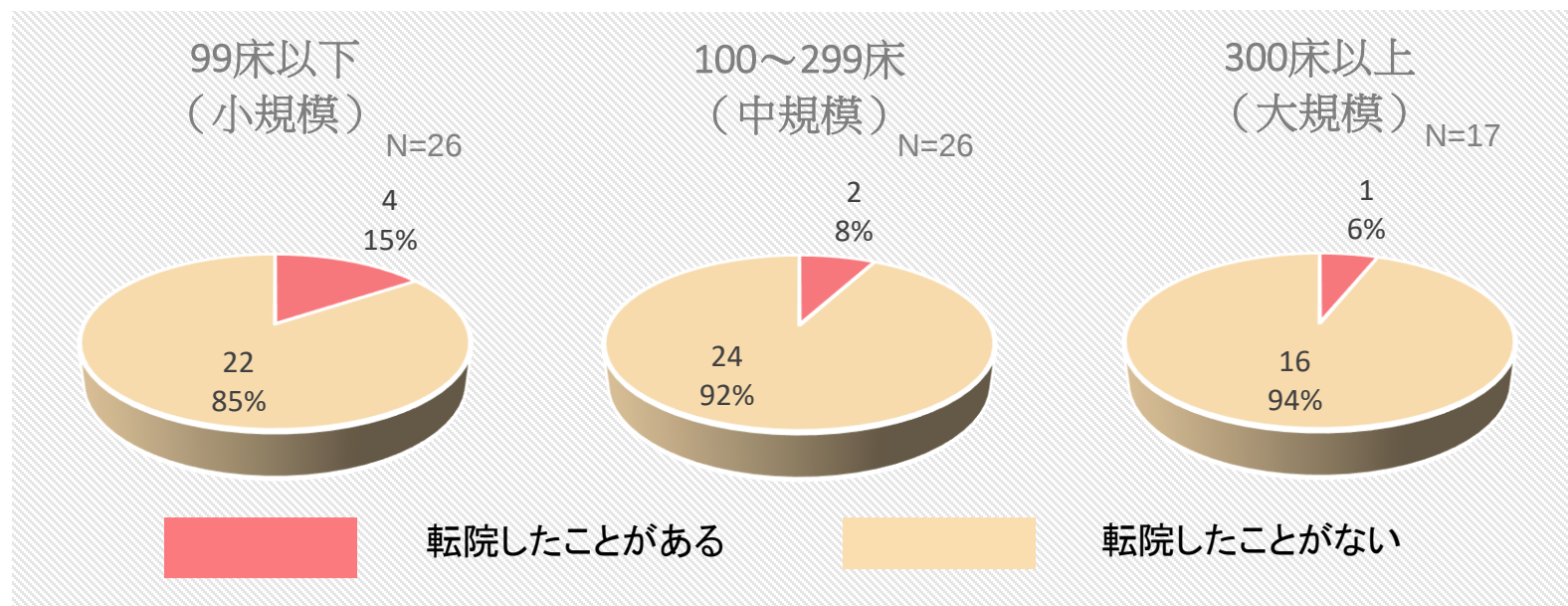
その他理由	転院	院内在庫ないため	検査外注のため	緊急輸血を想定していない
99床以下	3	0	1	3
100～299床	0	4	0	1
300床以上	0	1	0	0

Q6. 緊急輸血開始までに30分以上待てる場合の対応



その他理由	転院	院内在庫ないため	検査外注のため	緊急輸血を想定していない
99床以下	2	0	1	3
100～299床	0	3	0	1
300床以上	0	1	0	0

Q7.輸血を目的とした患者の他施設への転院の有無とその理由

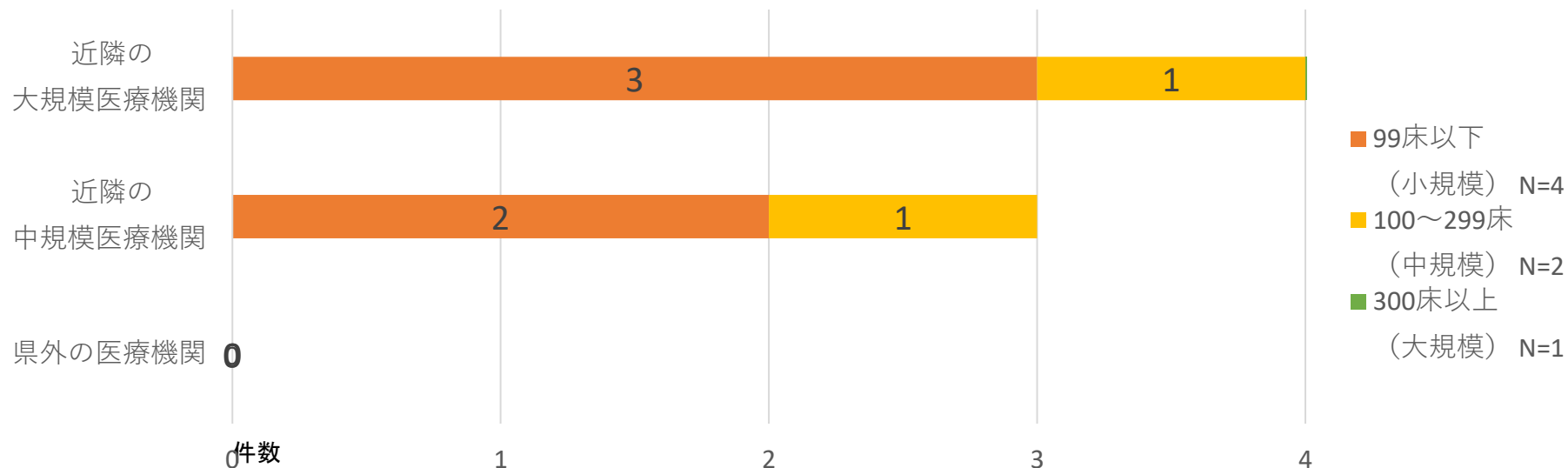


理由	大量輸血のため	院内備蓄がないため	適応する製剤の在庫がなかったため	特殊な検査対応が必要だったため
99床以下	1	3	0	0
100～299床	1	0	1	0
300床以上	0	0	0	1

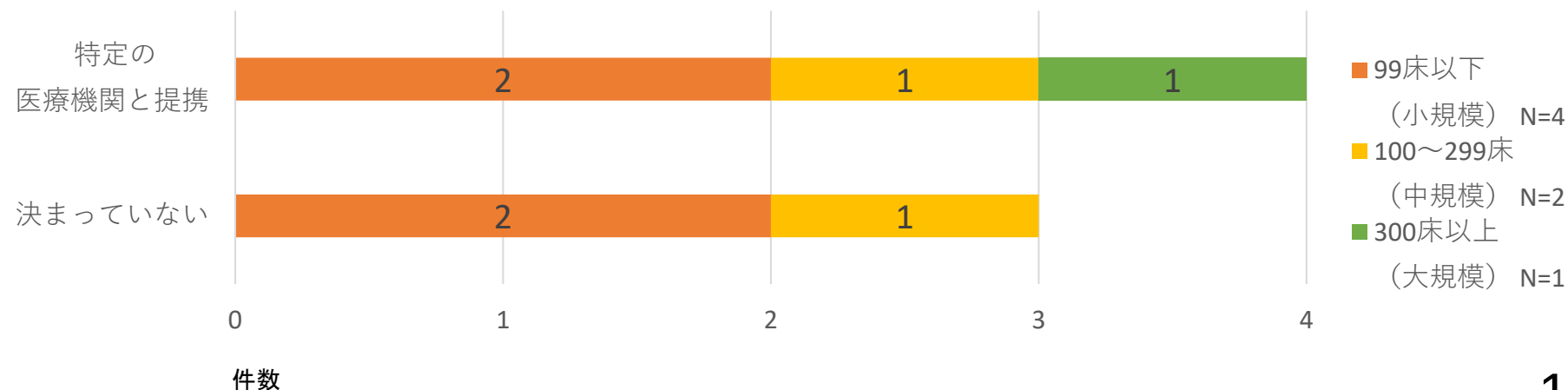
複数回答あり

Q8.輸血を目的とした患者の他施設への転院先

複数回答あり



Q9.輸血を目的とした患者の転院先施設との連携状況



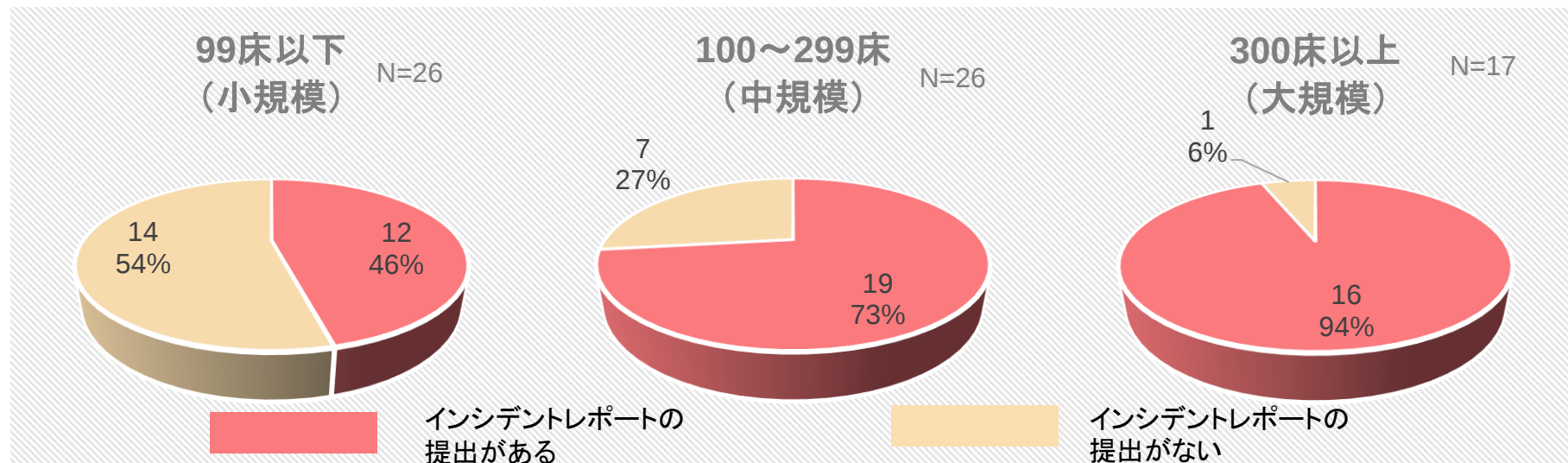
Q10.過去1年間(2023年4月～2024年3月)での病院外輸血の実施施設

複数回答あり

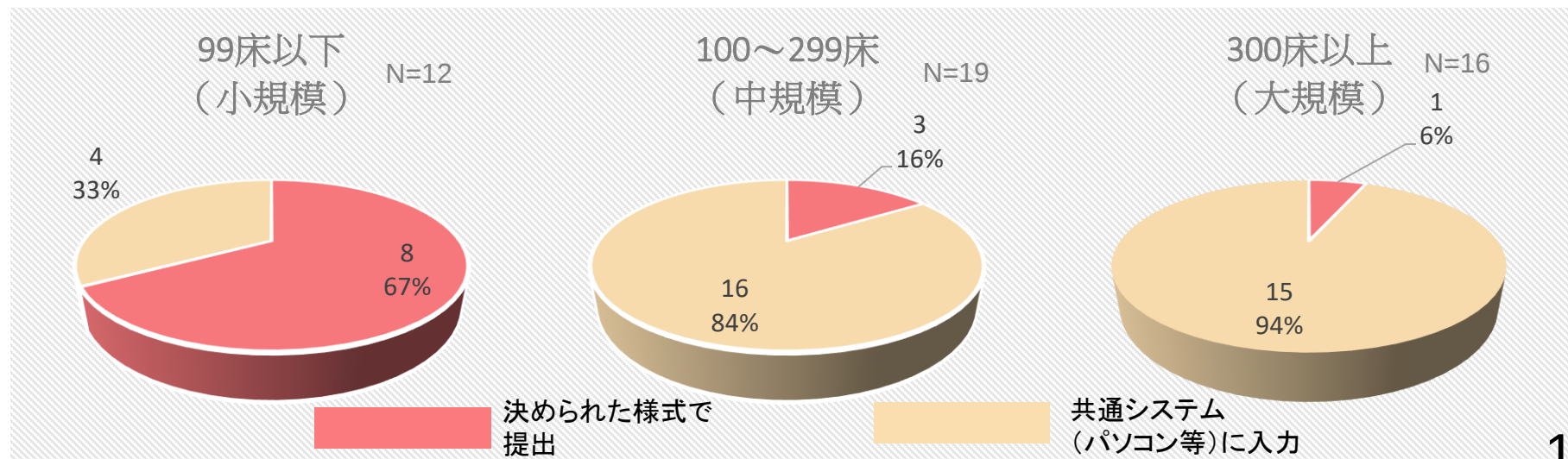
	99床以下 (小規模) N=26	100～299床 (中規模) N=25	300床以上 (大規模) N=17
介護施設で実施	1 実施回数：4回	0	0
在宅で実施	1 実施回数：8回	1 実施回数：1回	0
実施していない	22	24	17
今後予定している	2	0	0

今後予定している実施場所	
在宅	1
未回答	1

Q11.輸血関連インシデントレポートの提出方法がありますか

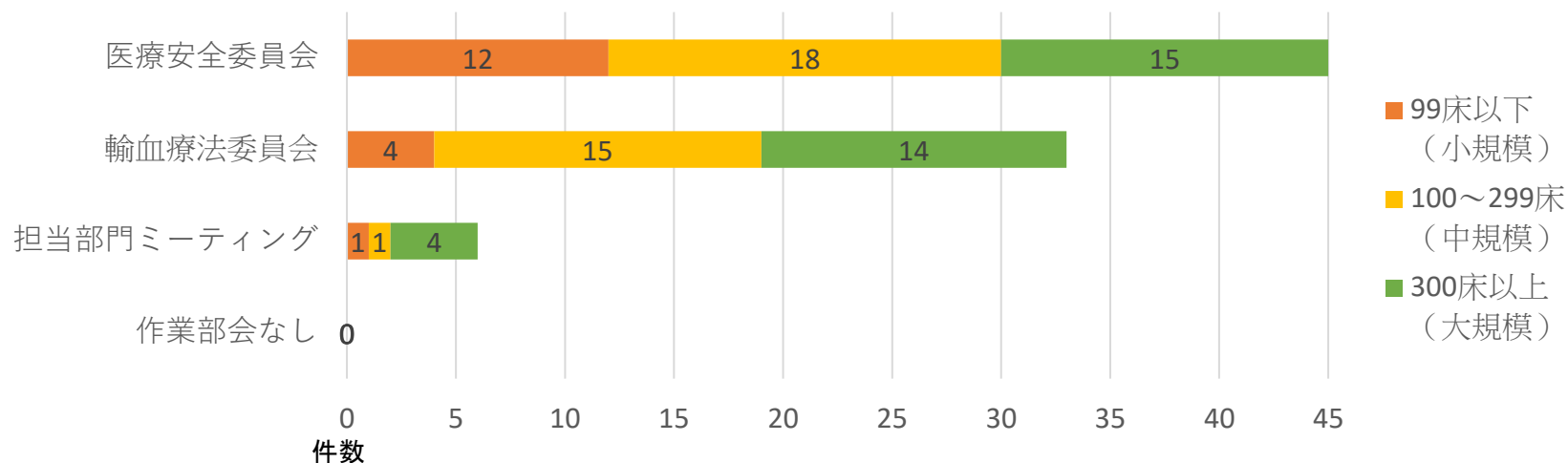
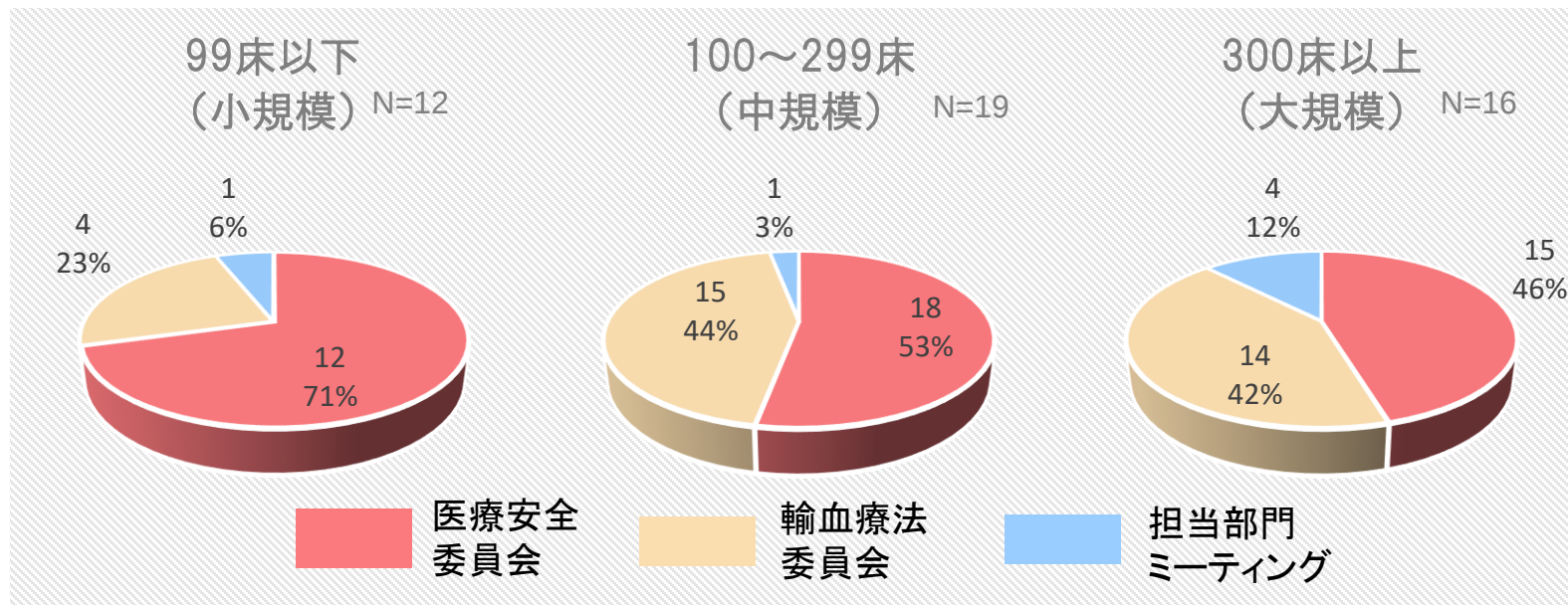


Q12.どのように提出しますか



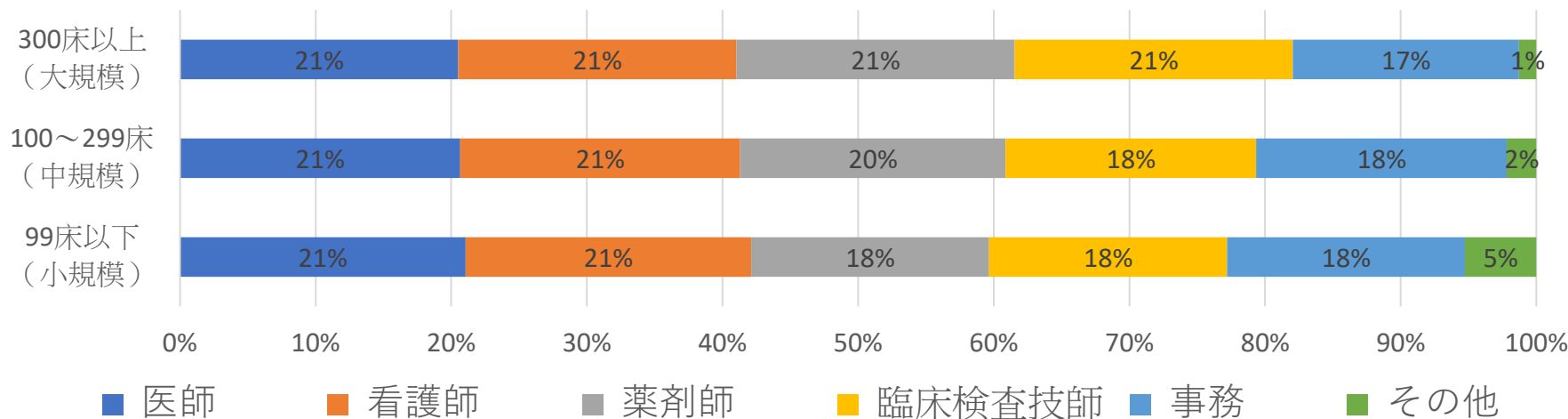
Q13.輸血関連インシデントレポートを分析する作業部会について

複数回答あり



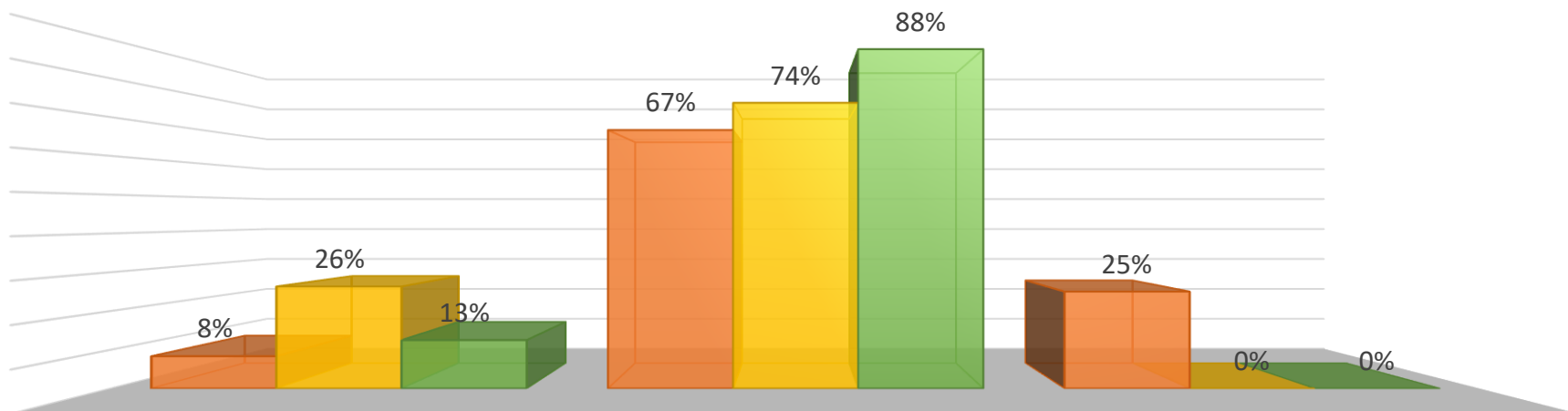
Q14.輸血関連インシデントレポート作業部会のメンバー構成

複数回答あり



その他 助産師、臨床工学技士、放射線技師、理学療法士、放射線技師、管理栄養士、看護助手、歯科衛生士

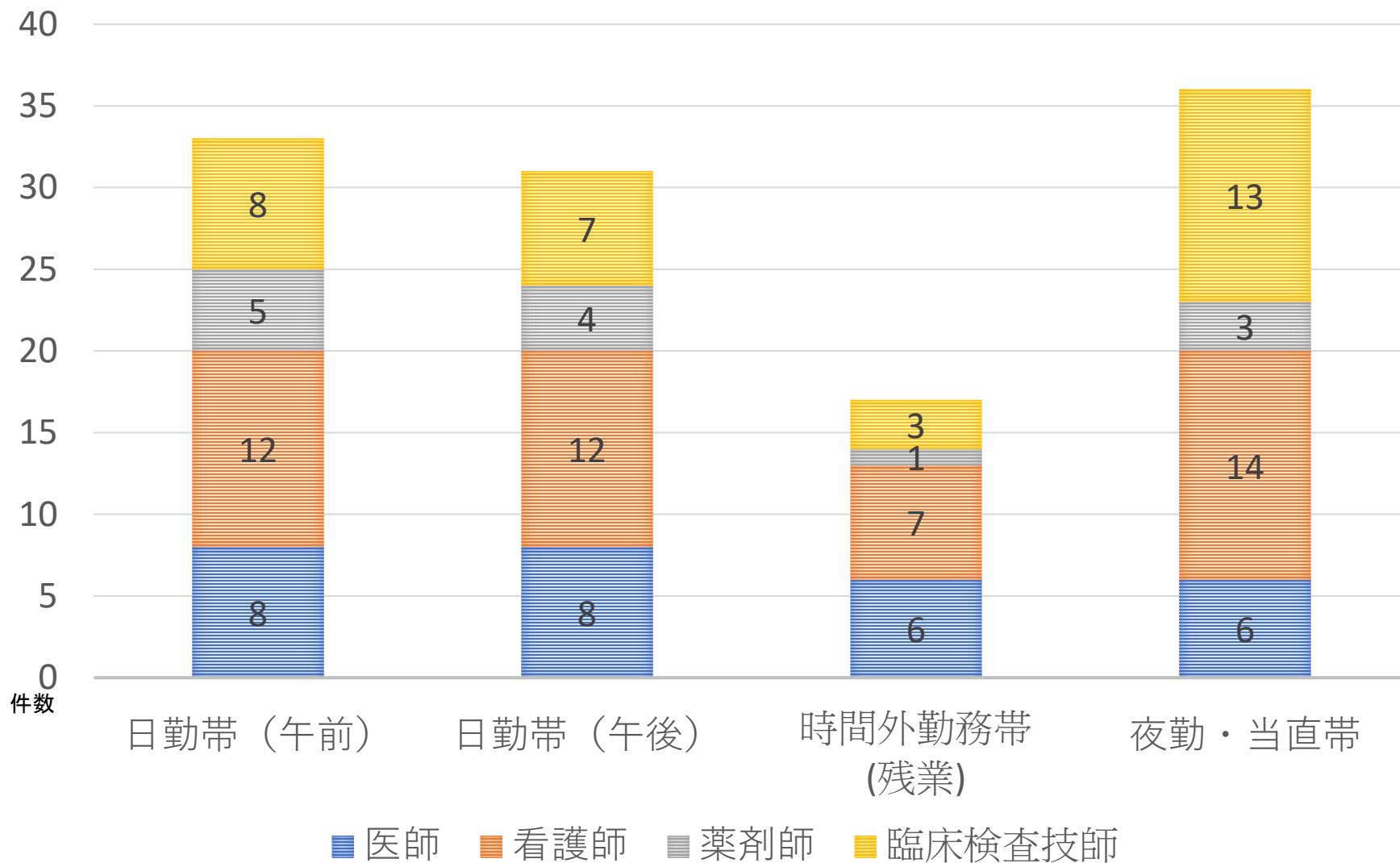
Q15.インシデント事例のレベル分けについて



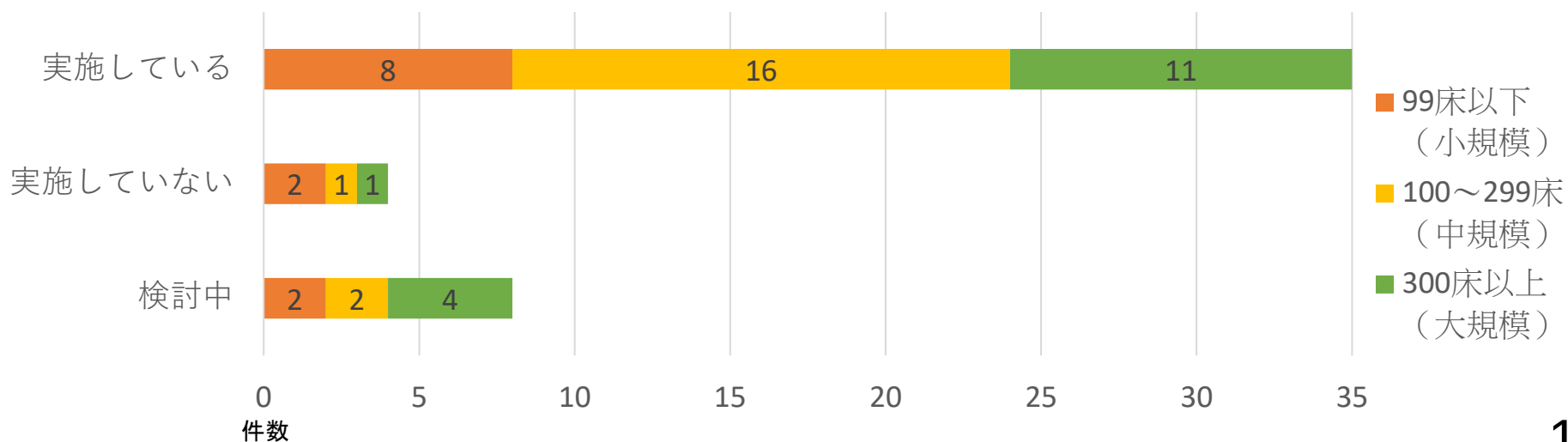
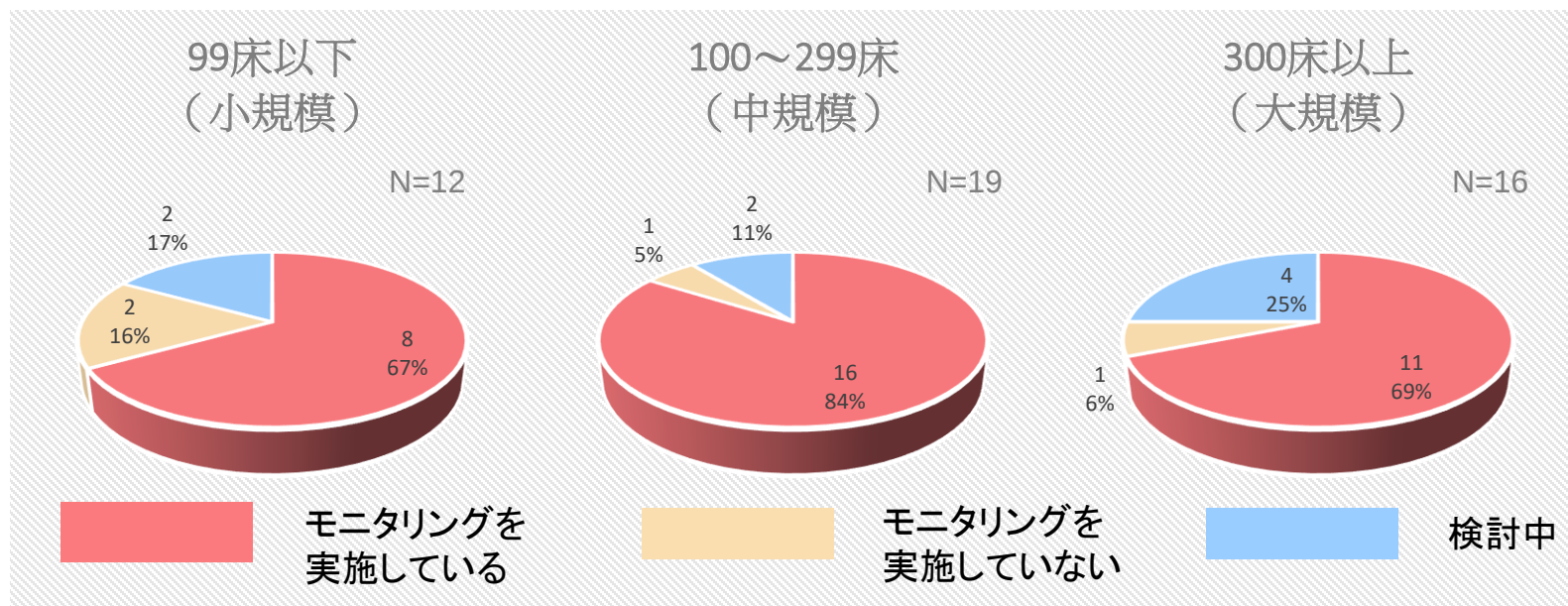
	アクシデントと インシデント(ヒヤリハット)の 2つに分けている	アクシデント インシデントを レベル分けしている	分けていない
■ 99床以下 (小規模) N=12	8%	67%	25%
■ 100～299床 (中規模) N=19	26%	74%	0%
■ 300床以上 (大規模) N=16	13%	88%	0%

Q16.インシデント事象が多い勤務帯・職種別

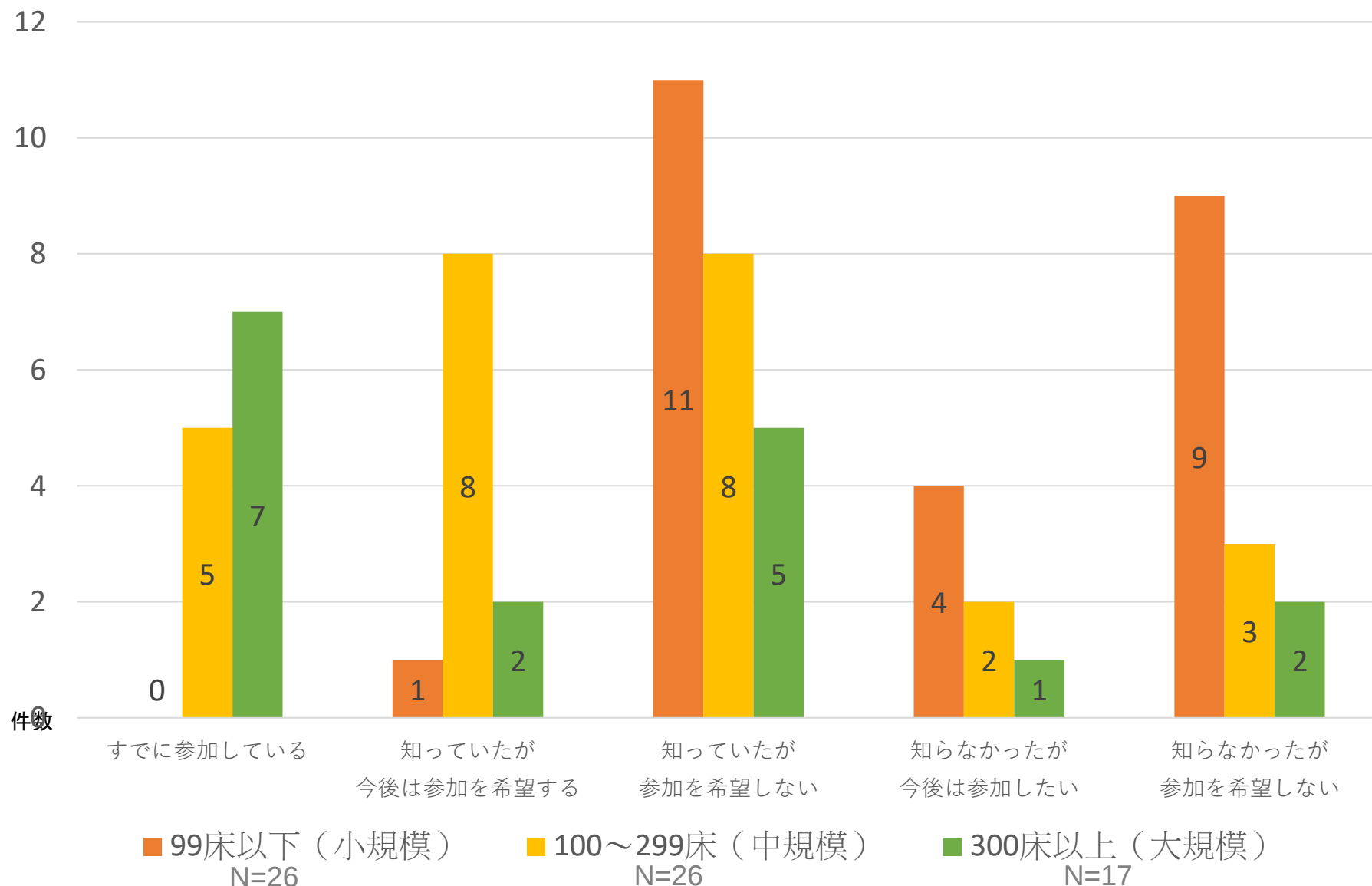
複数回答あり



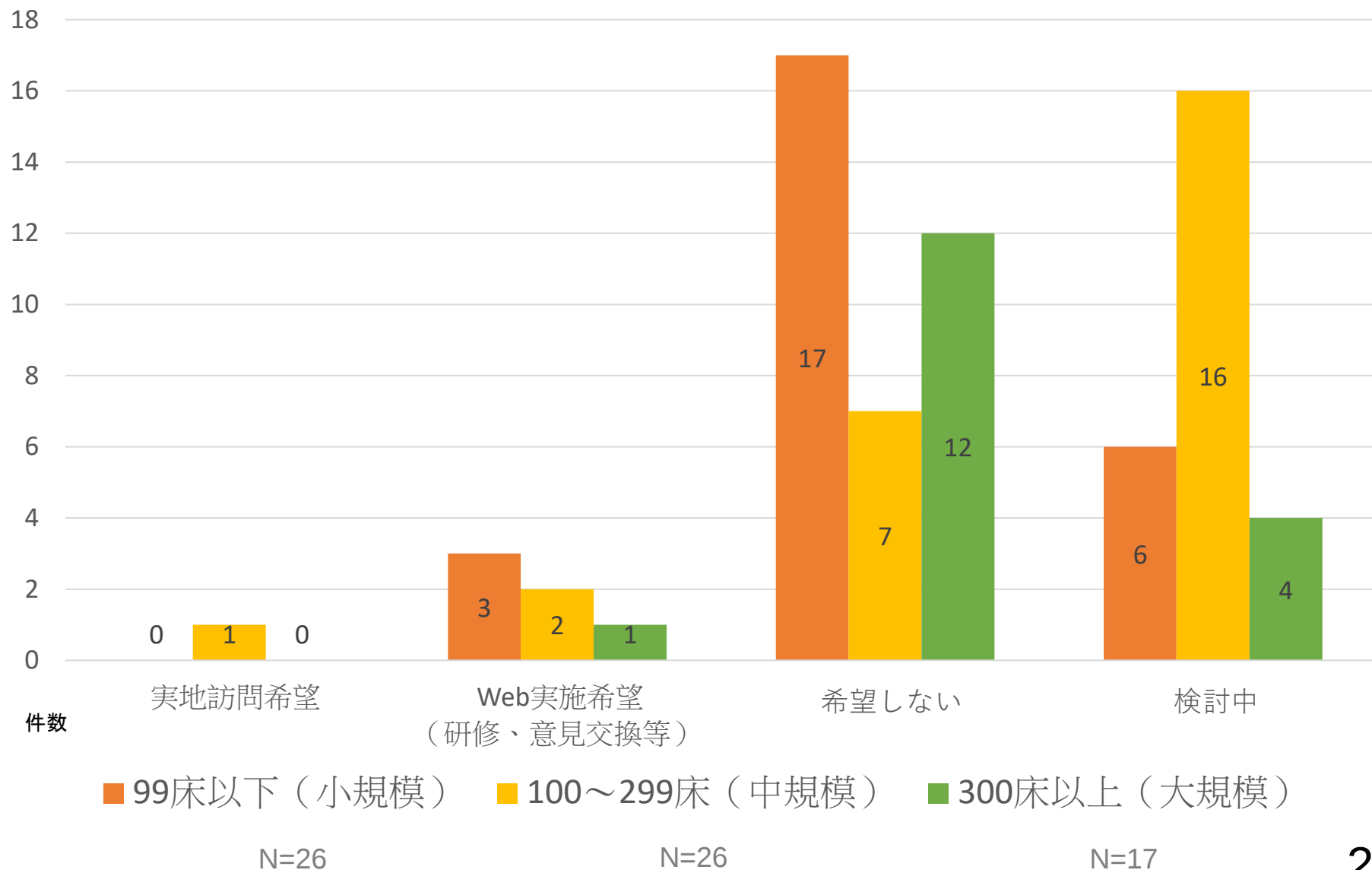
Q17.インシデント事象の分析・再発防止策後のモニタリングについて



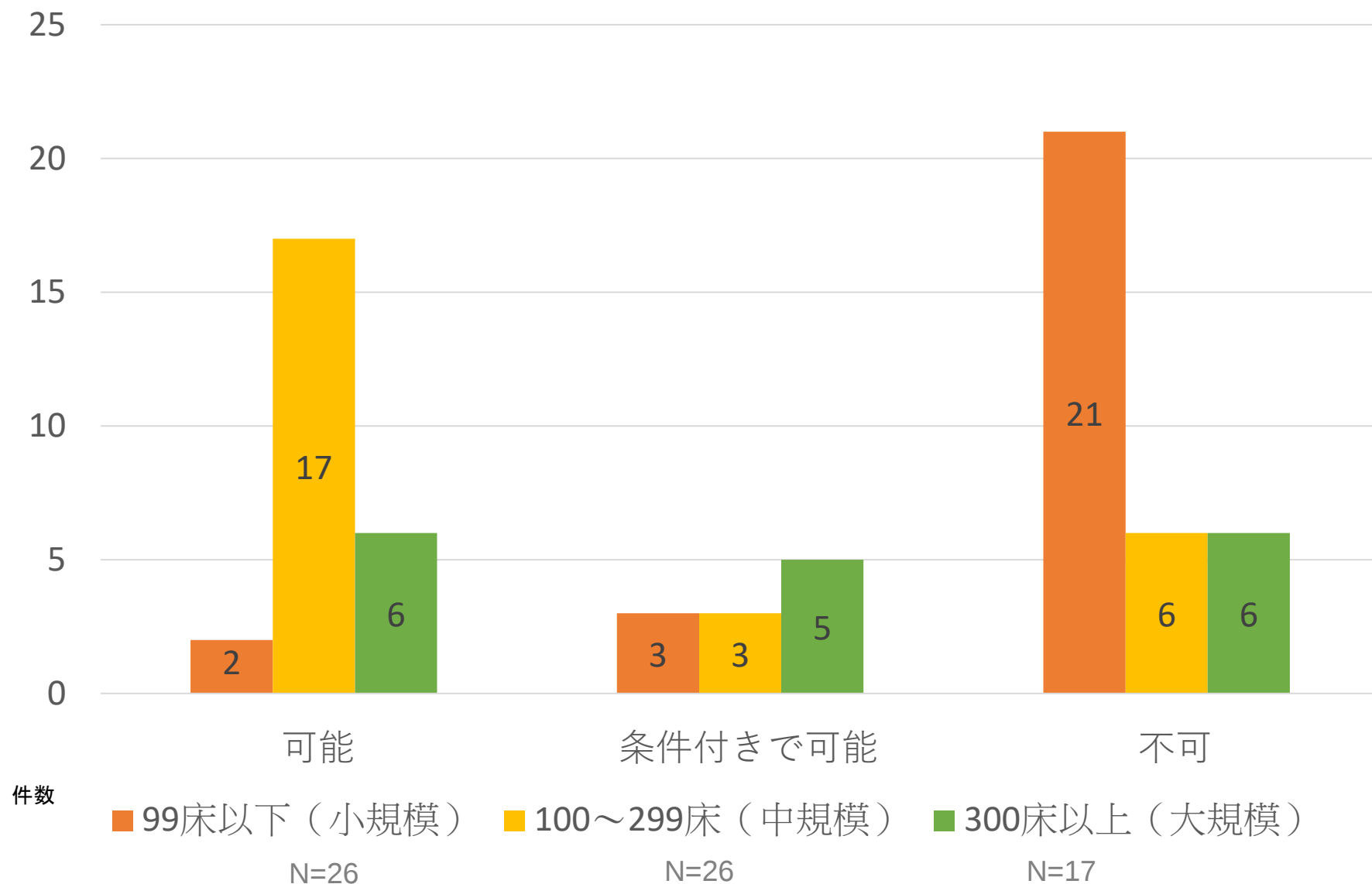
Q18. 輸血療法部会の「輸血関連インシデント解析事業」をご存知でしたか



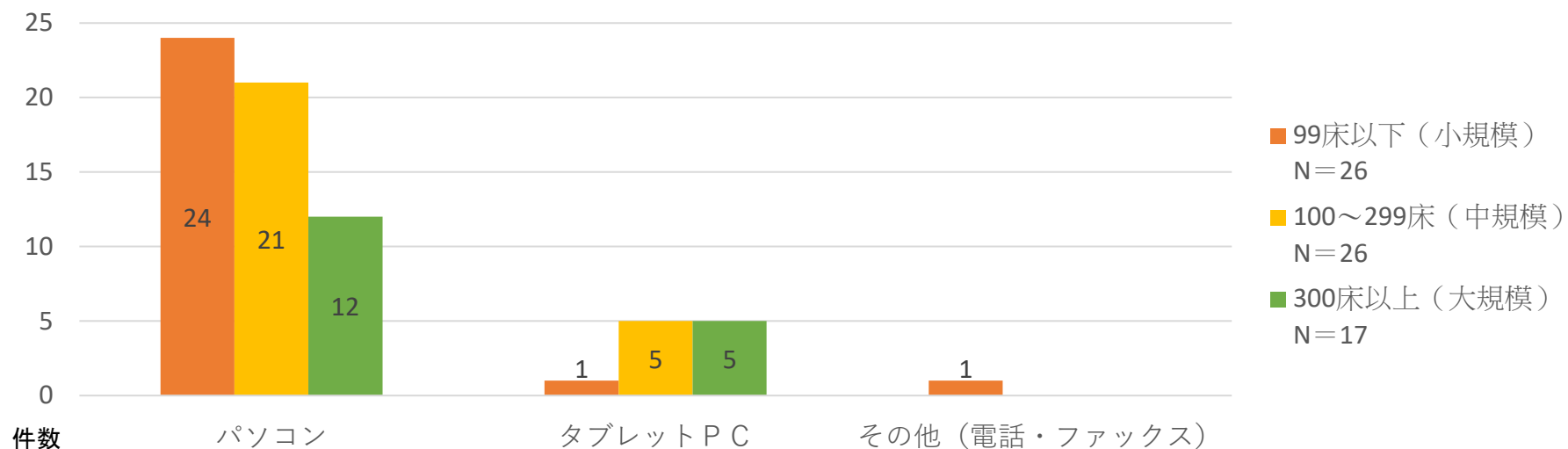
Q19. 輸血療法部会『ASSIST WG』への訪問等を希望しますか



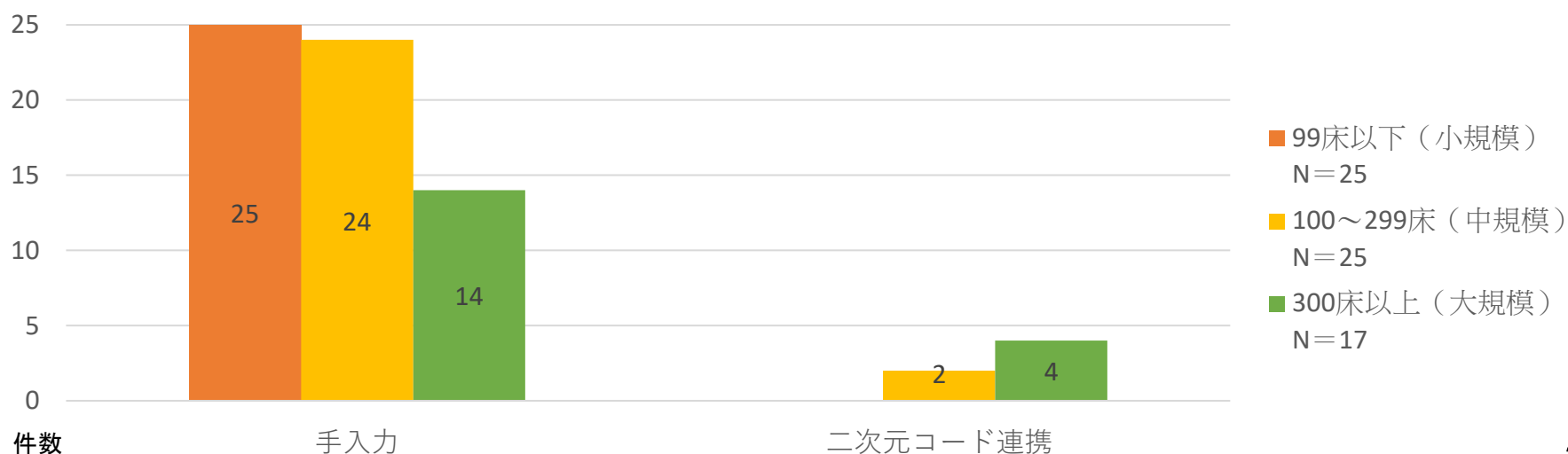
Q20. 血液センター職員による輸血療法委員会への出席について



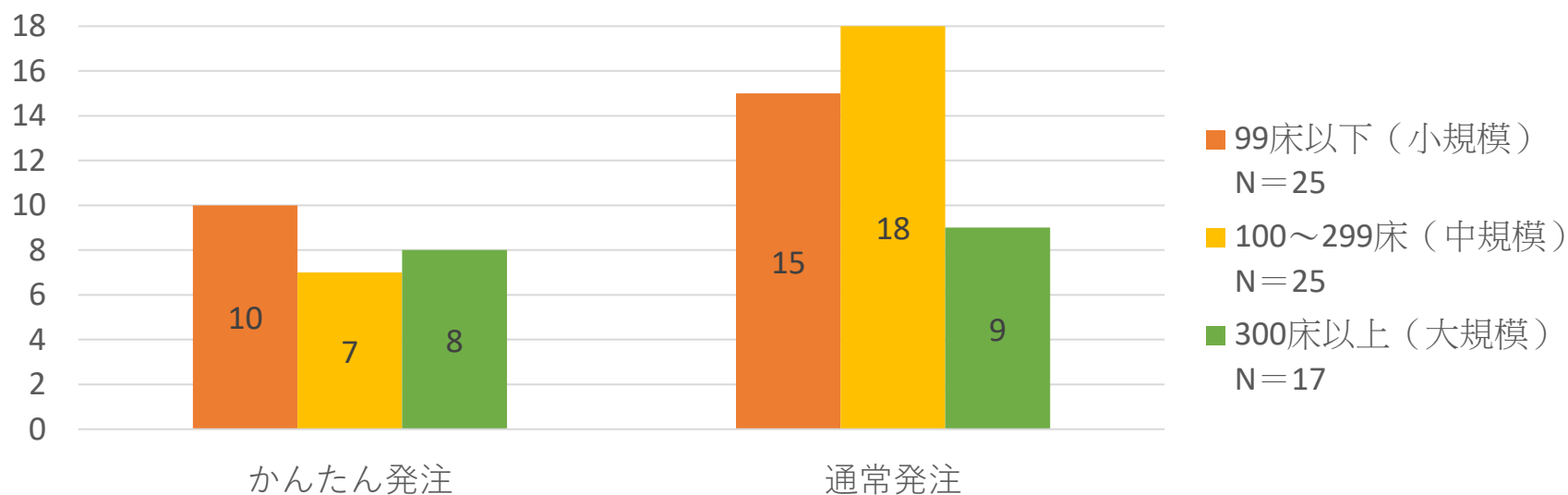
Q21. Web発注システムの入力には主にどのような機器を使用していますか



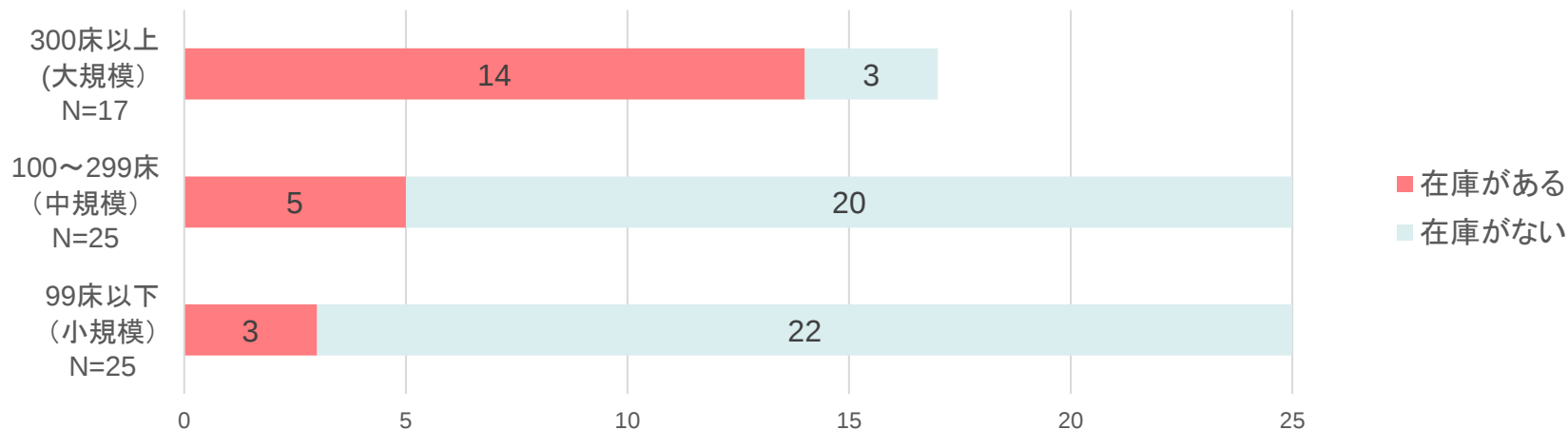
Q22. Web発注システムの入力にはどのような方法を使っていますか



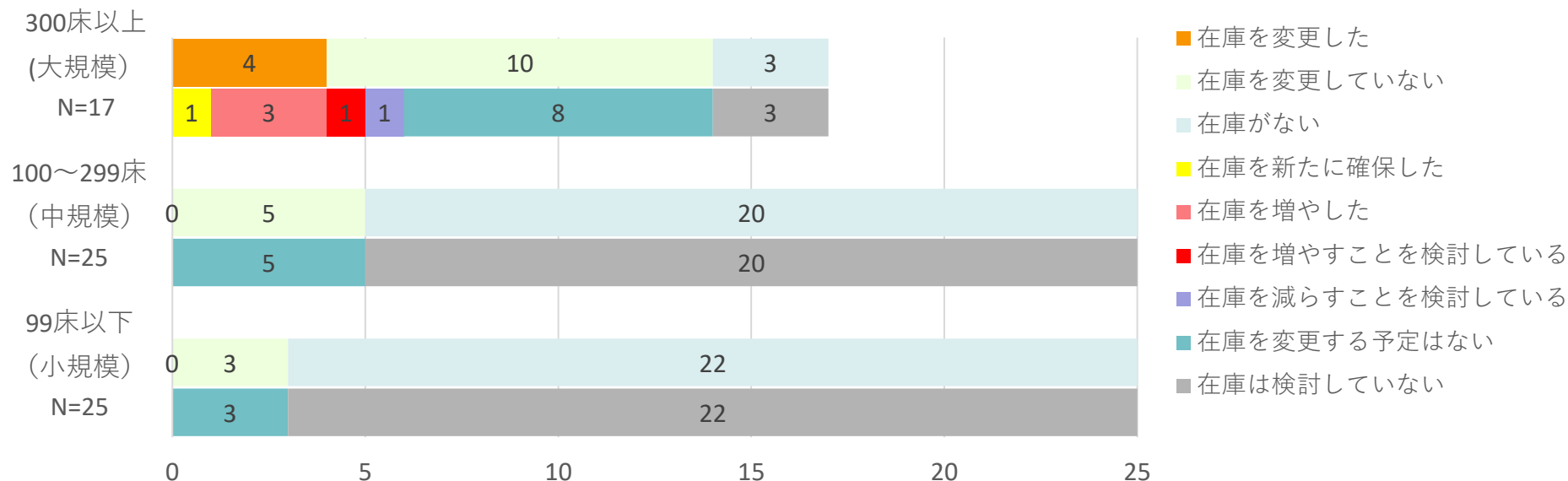
Q23. Web発注システムの血液製剤発注登録には、主にどのようなメニューを使用していますか



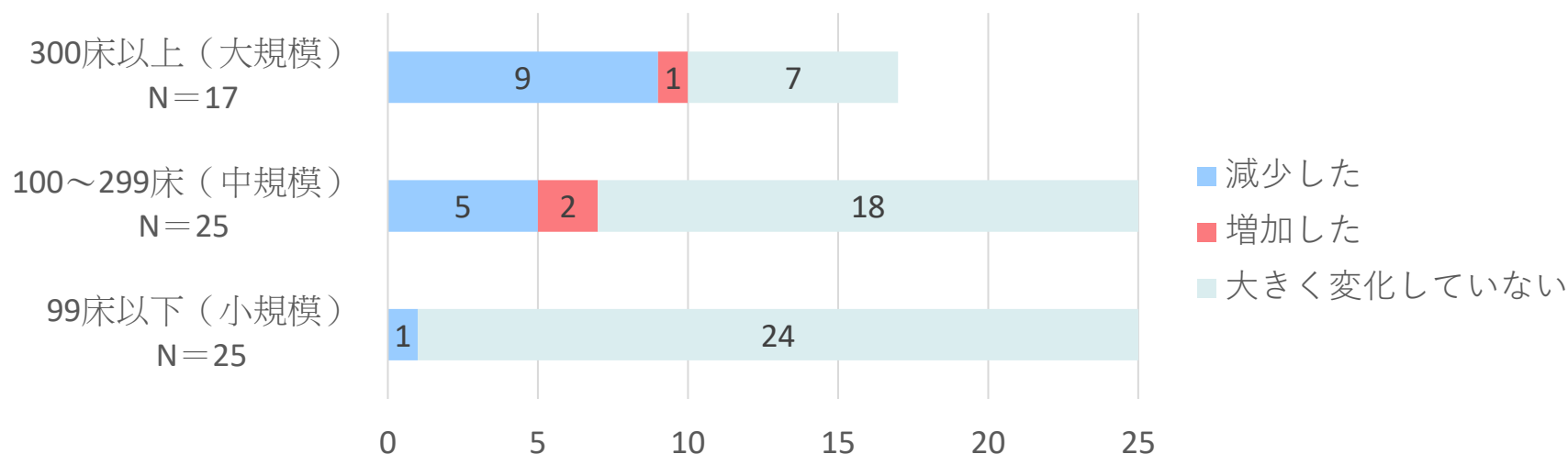
赤血球製剤の院内在庫はありますか？



Q25～28 有効期限延長を理由に院内在庫に変更がありますか？



Q29 2022年度以前と比較して2023年度における赤血球液製剤の廃棄率に変化はありましたか



Q30 「増加した」と回答した方はどのような理由が考えられると思いますか

理由	99床以下 （小規模） N=0	100～299床 （中規模） N=2	300床以上 （大規模） N=1
松本事業所の移転に伴い院内在庫数を増加したため	0	0	1
新任医師への周知が足らず準備血が多く発生し、 期限内の使用ができなかったため。	0	1	0
2022年の廃棄率が0%だったため	0	1	0

血液製剤の使用状況について

回答施設数	
大規模施設	17施設
中規模施設	23施設
小規模施設	23施設
(うち使用実績なし	2施設)

輸血用血液製剤の供給数の推移について

「血液事業年度報 令和5年度統計表」より引用

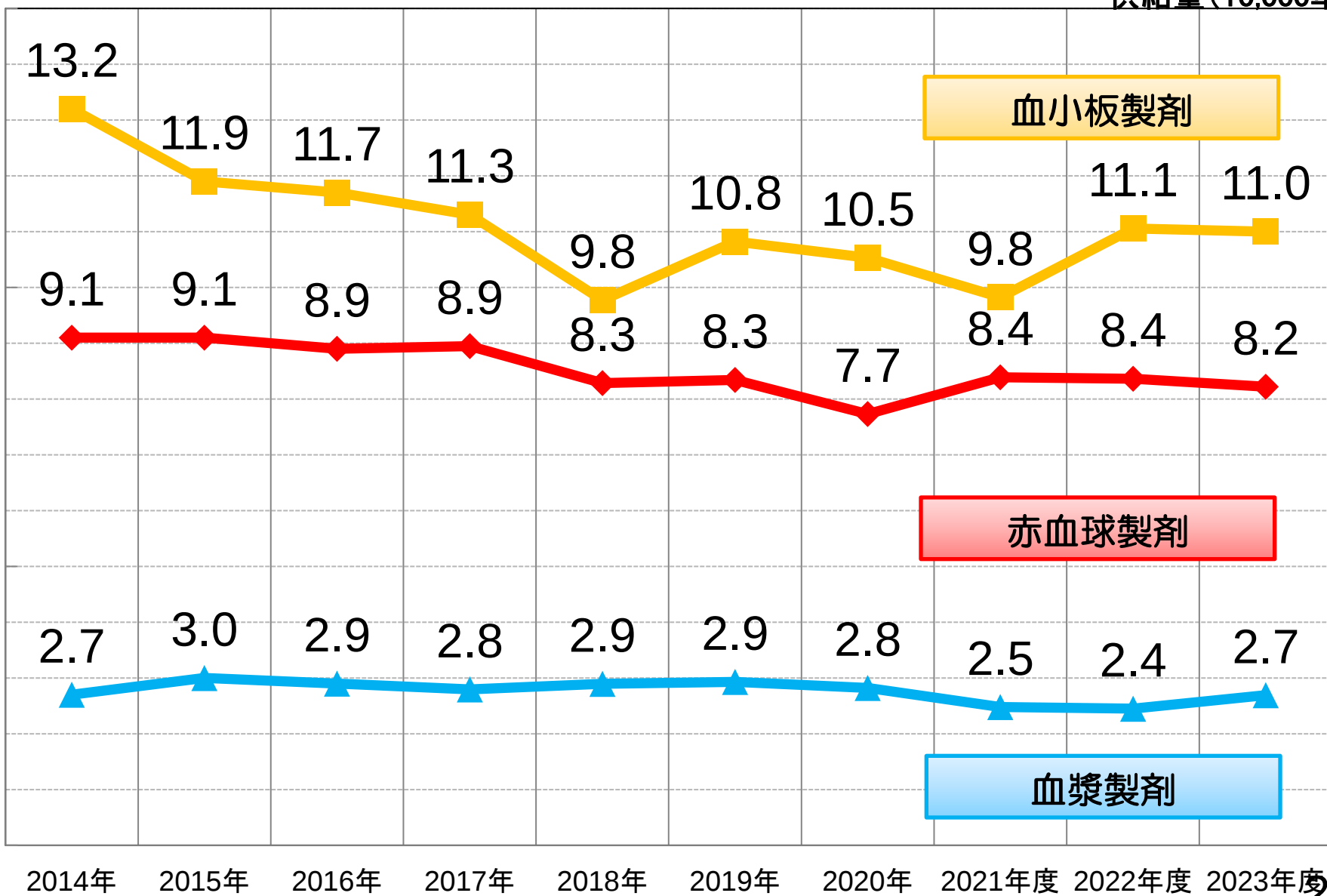
供給量(10,000単位)

15

10

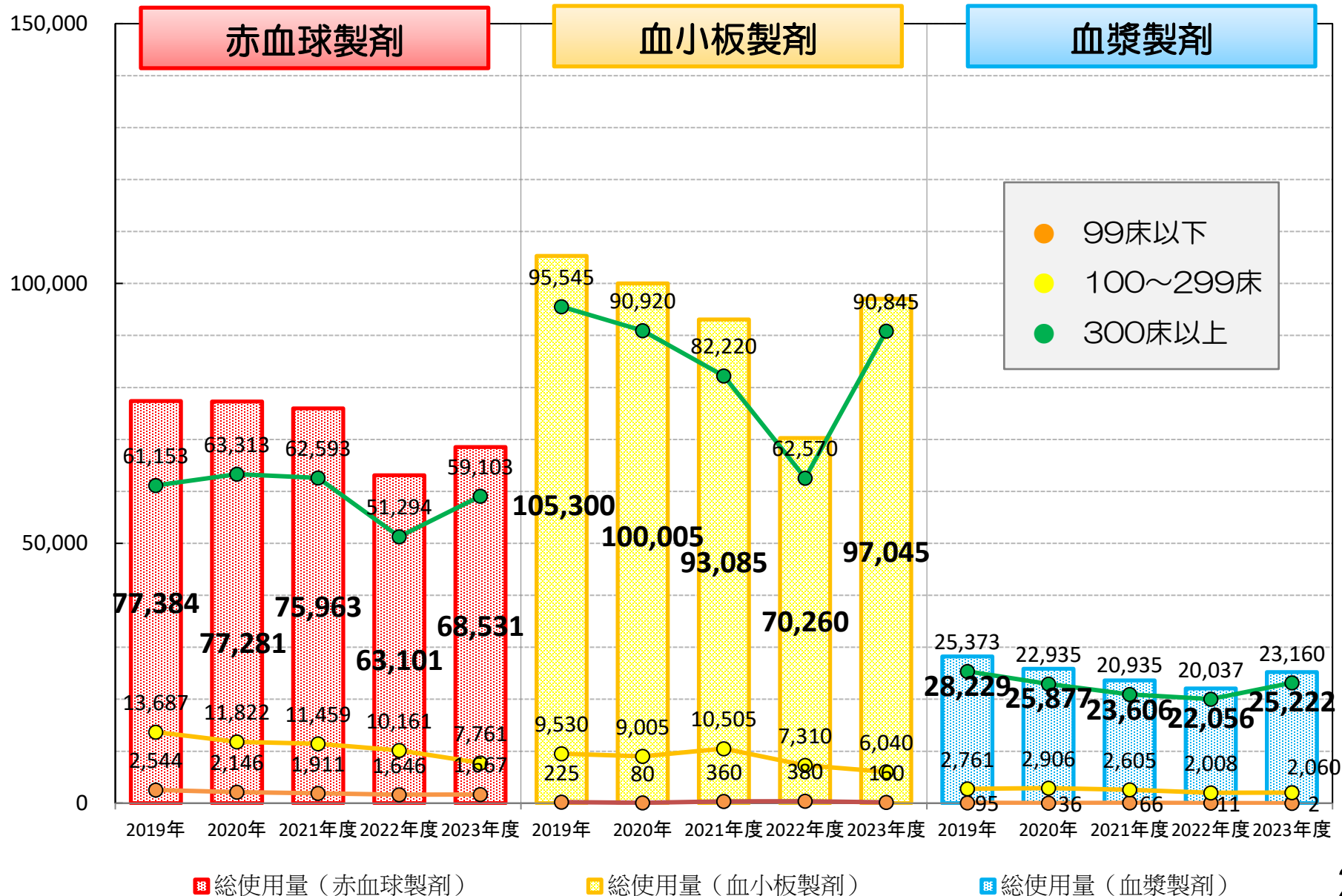
5

0

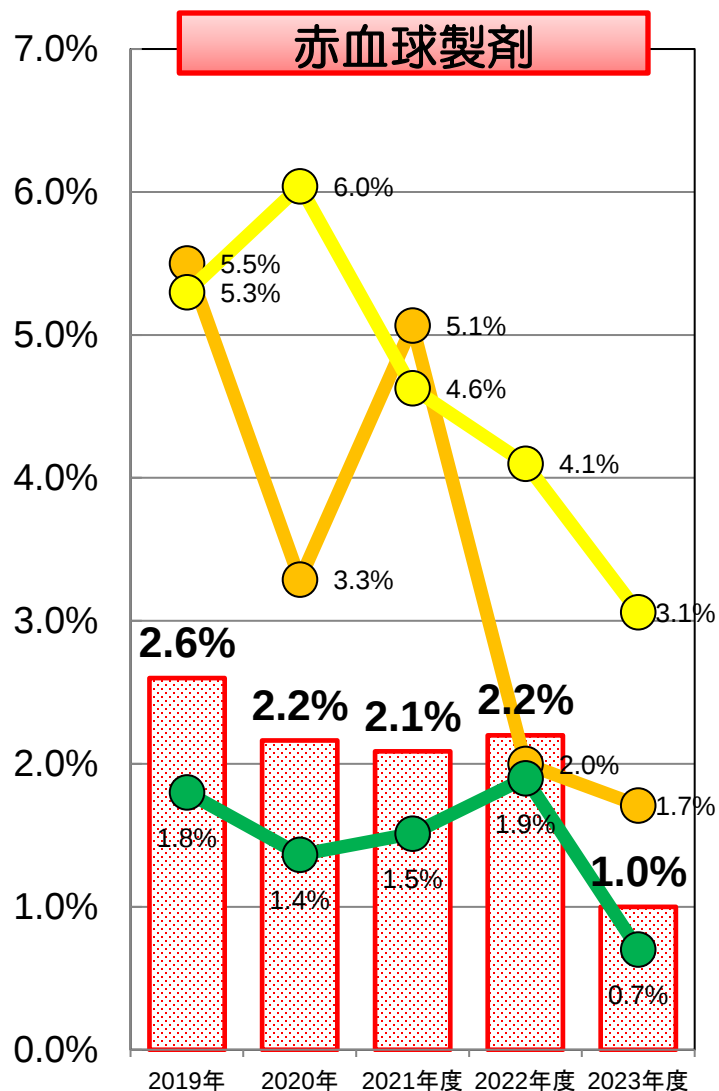


輸血用血液製剤の使用量の推移について

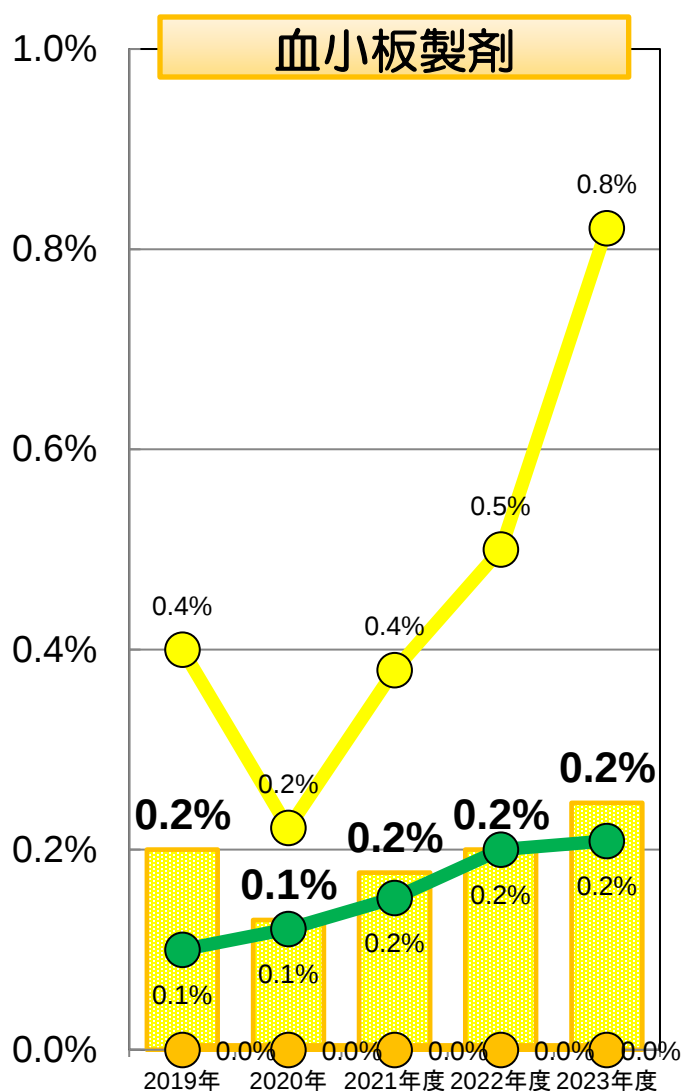
使用量(単位)



輸血用血液製剤(RBC/PC)の廃棄率の推移について



■ 全体減損率(赤血球製剤)



■ 全体減損率(血小板製剤)

赤血球製剤
廃棄理由

期限切れ

保管不備

患者死亡

血小板製剤
廃棄理由

期限切れ

患者死亡

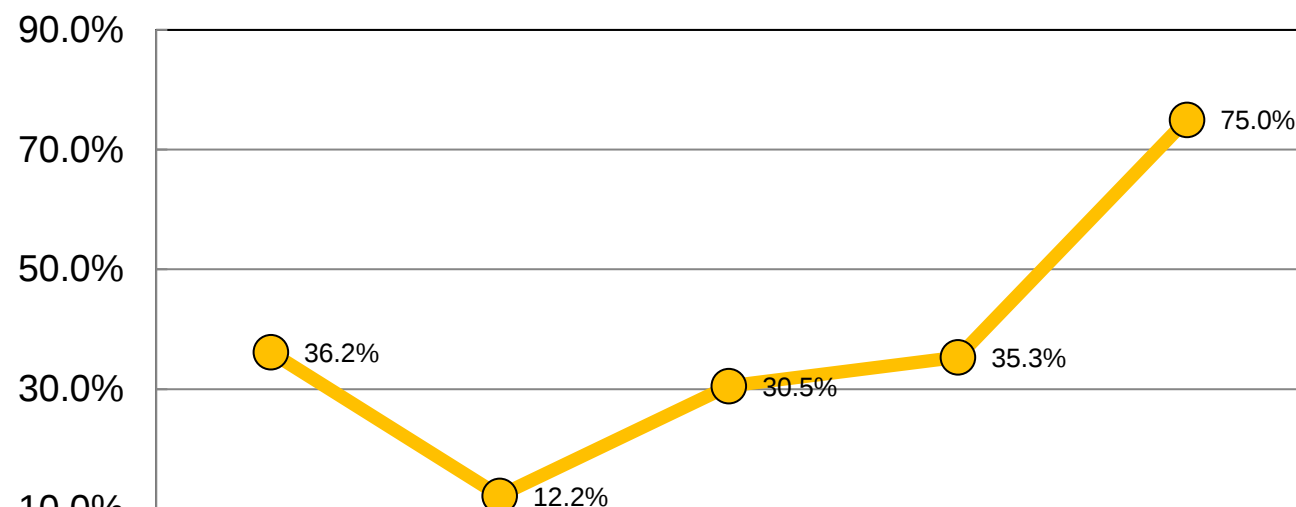
OPE延期

● 99床以下

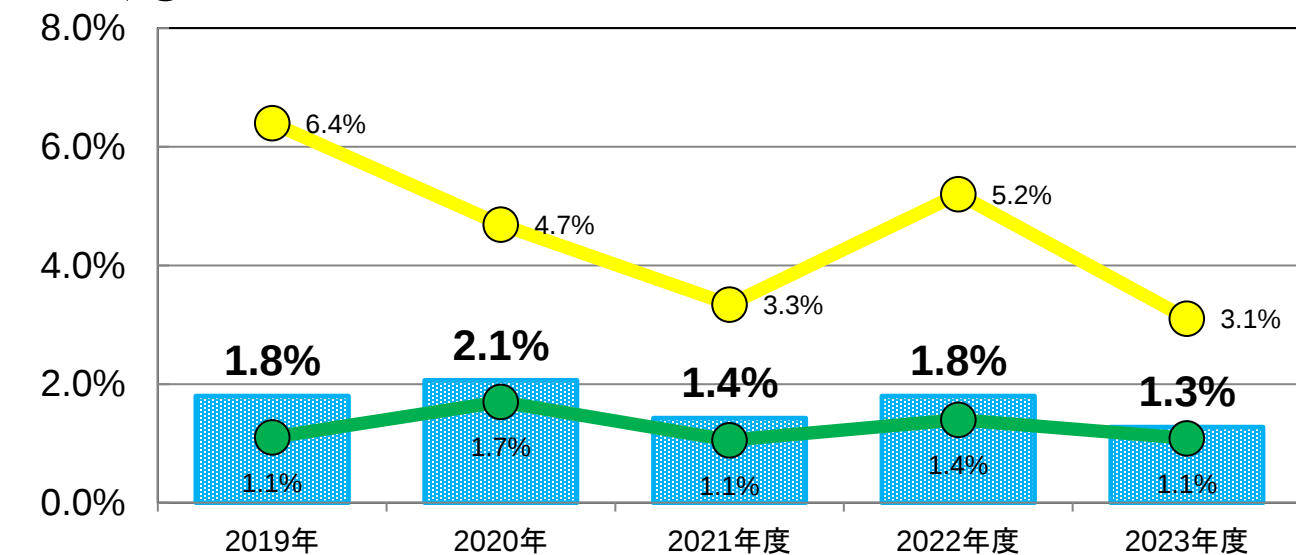
● 100~299床

● 300床以上

輸血用血液製剤(FFP)の廃棄率の推移について



≈



■ 全体減損率(血漿製剤)

血漿製剤廃棄理由

期限切れ

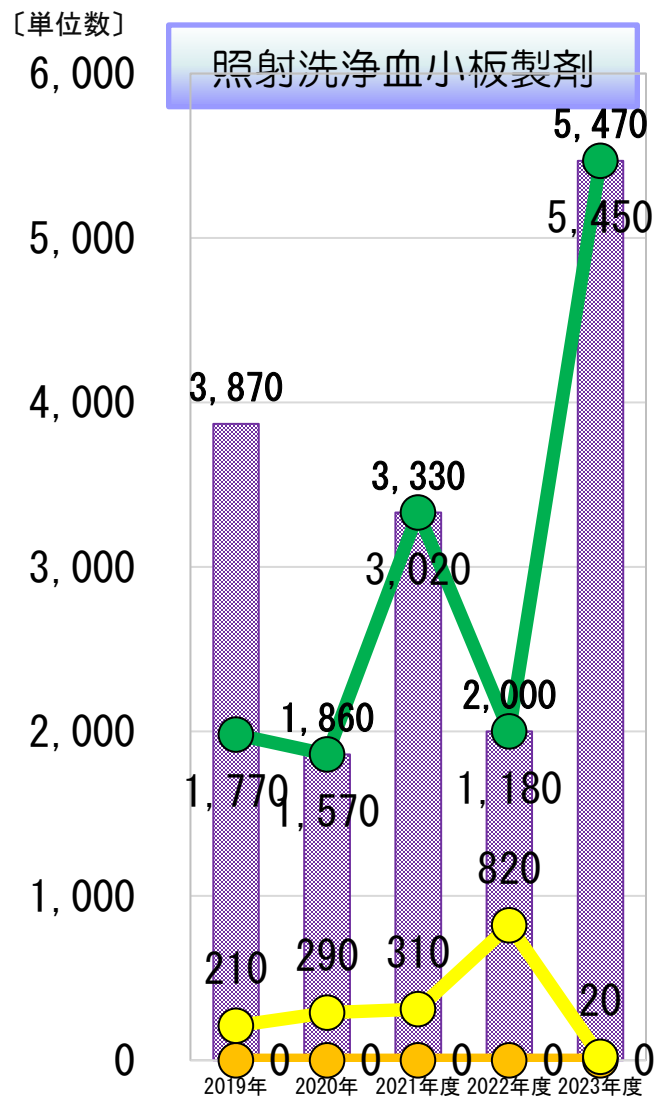
破 損

管理不備

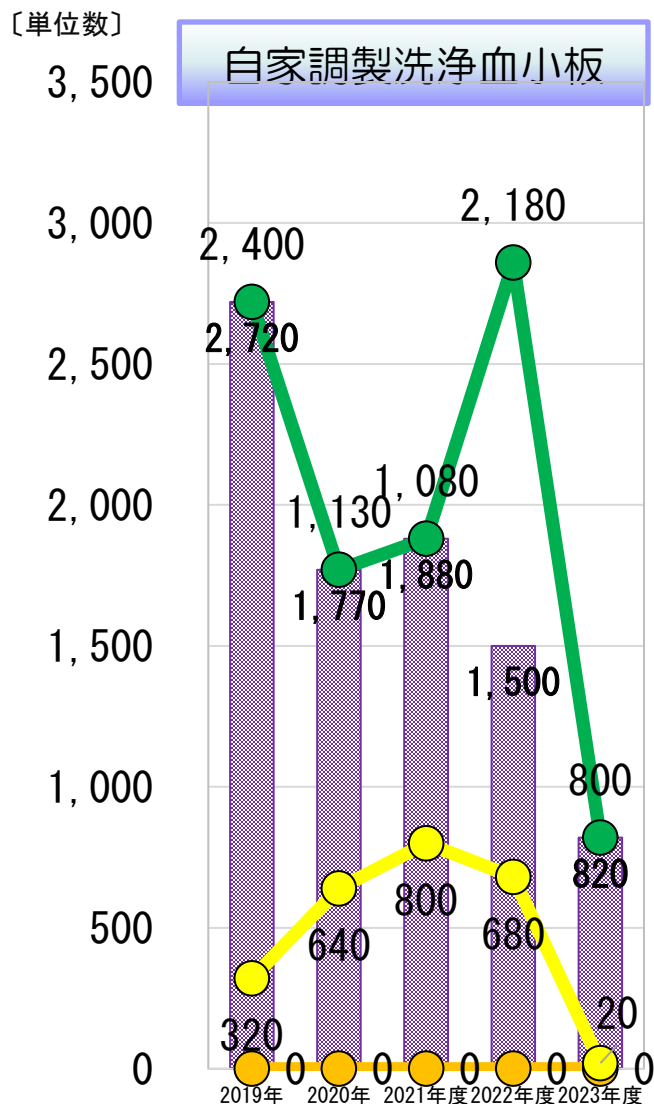
融解後未使用

- 99床以下
- 100~299床
- 300床以上

洗浄血小板製剤・その他血液製剤の使用状況について



■ 洗浄血小板製剤全体



■ 洗浄血小板製剤全体

その他製剤	使用単位数	廃棄単位数
全血製剤	0	0
洗浄赤血球液	122	0
解凍赤血球液	0	0
合成血	0	0



アルブミン製剤の使用状況について

アルブミン製剤使用量(g)

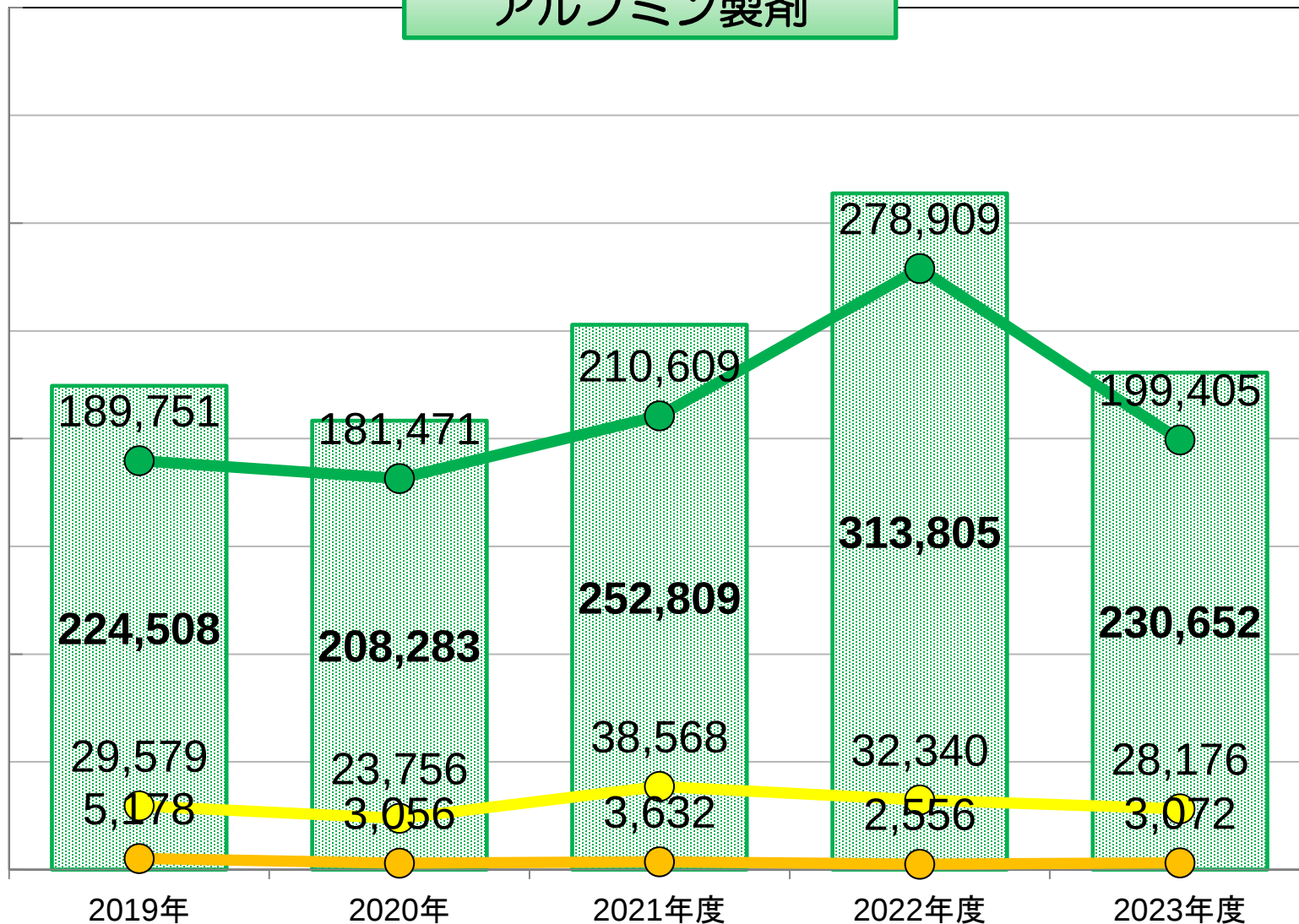
400,000

アルブミン製剤

300,000

100,000

0



アルブミン製剤全体

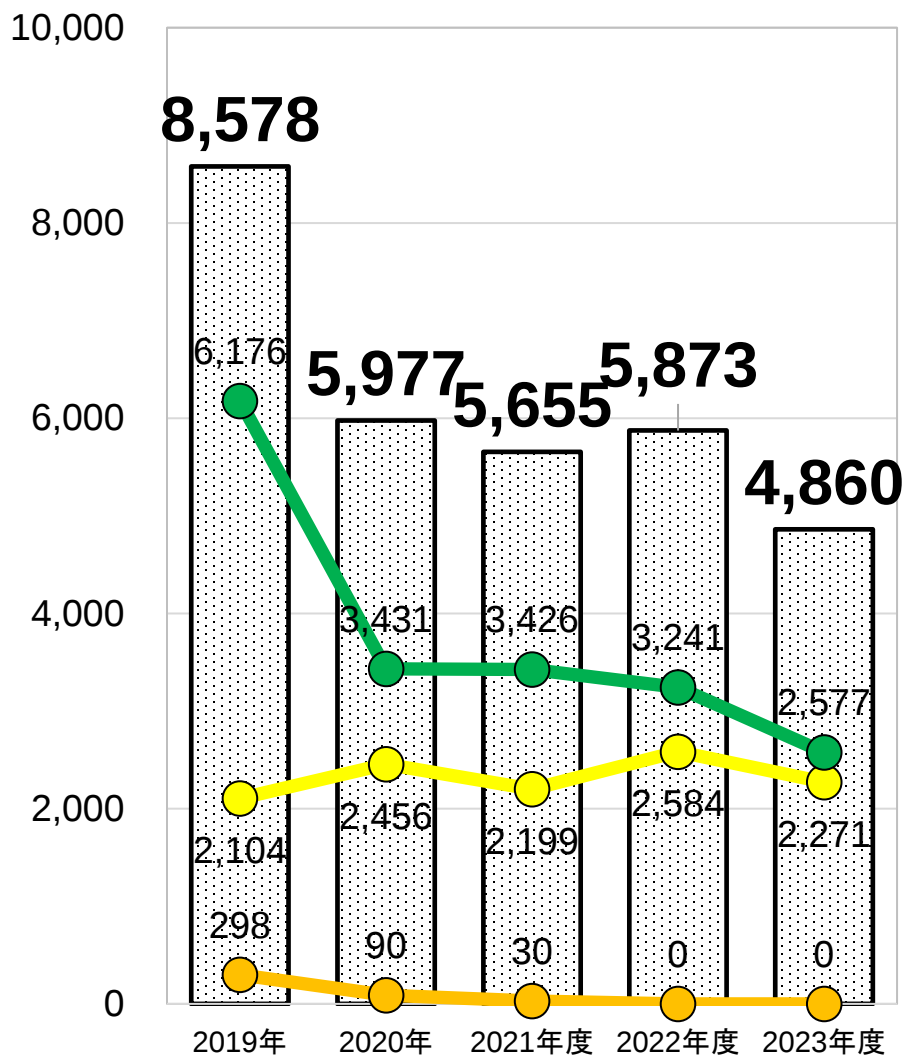
99床以下

100～299床

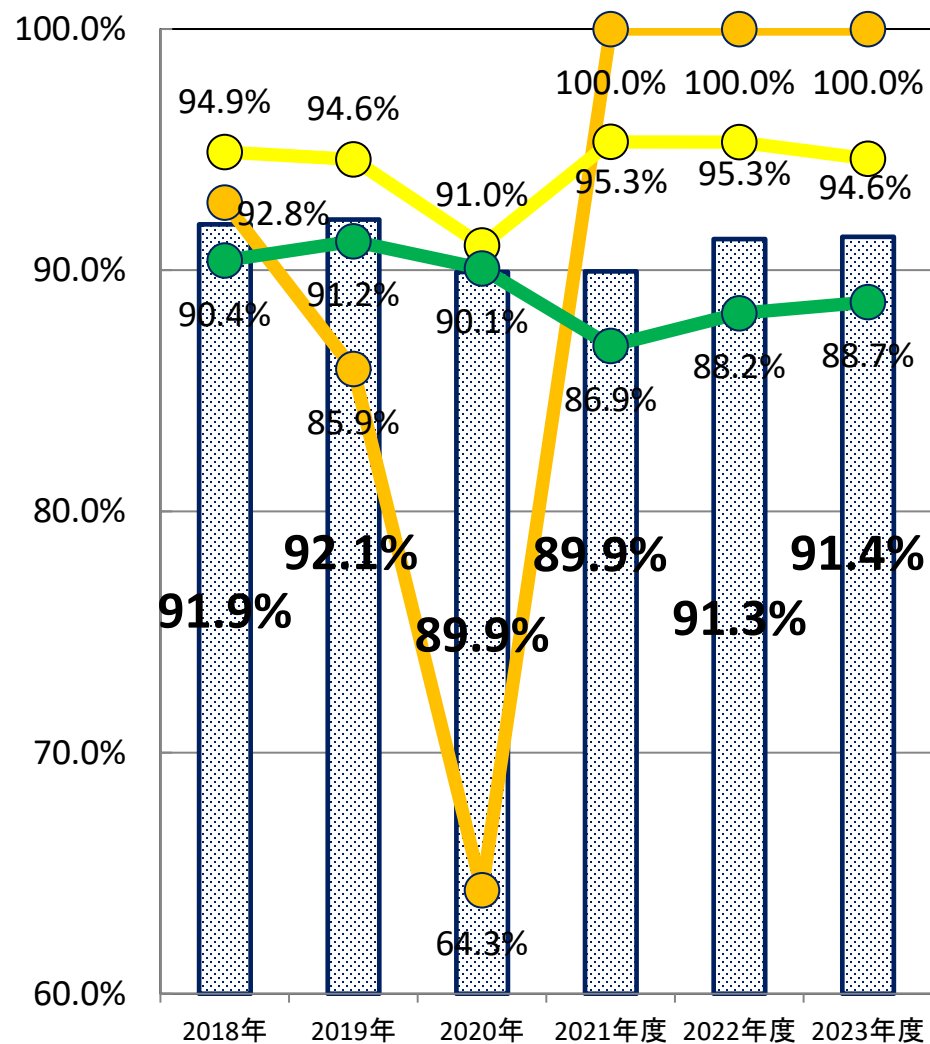
300床以上

貯血式自己血輸血の実施状況について

貯血式自己血 使用量(単位)



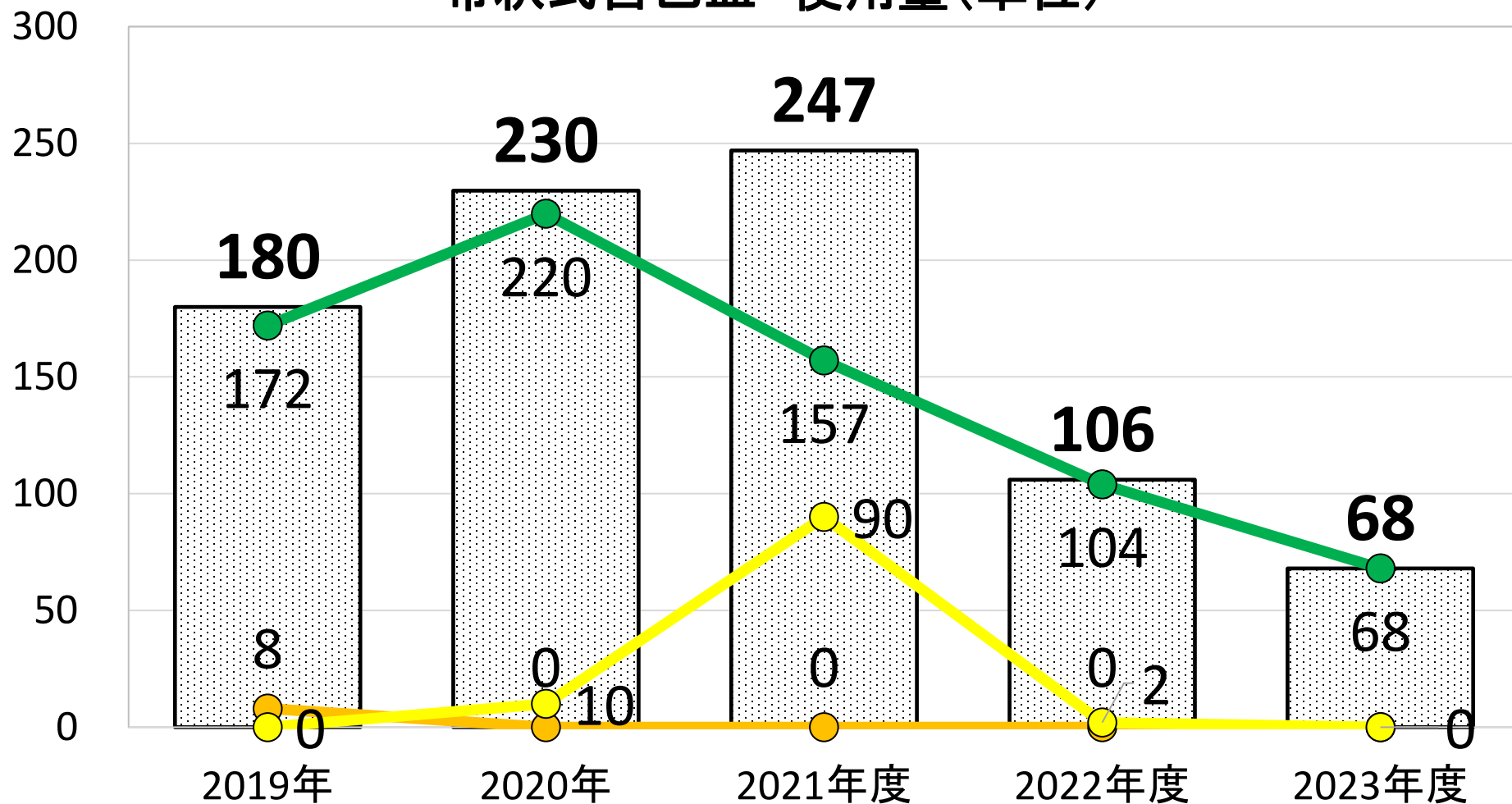
貯血式自己血 使用率



貯血式自己血使用量全体
 99床以下
 100～299床
 300床以上

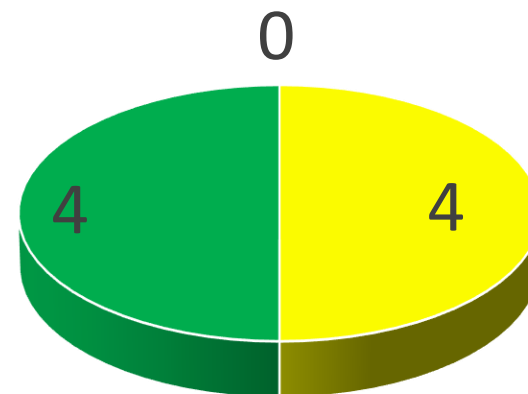
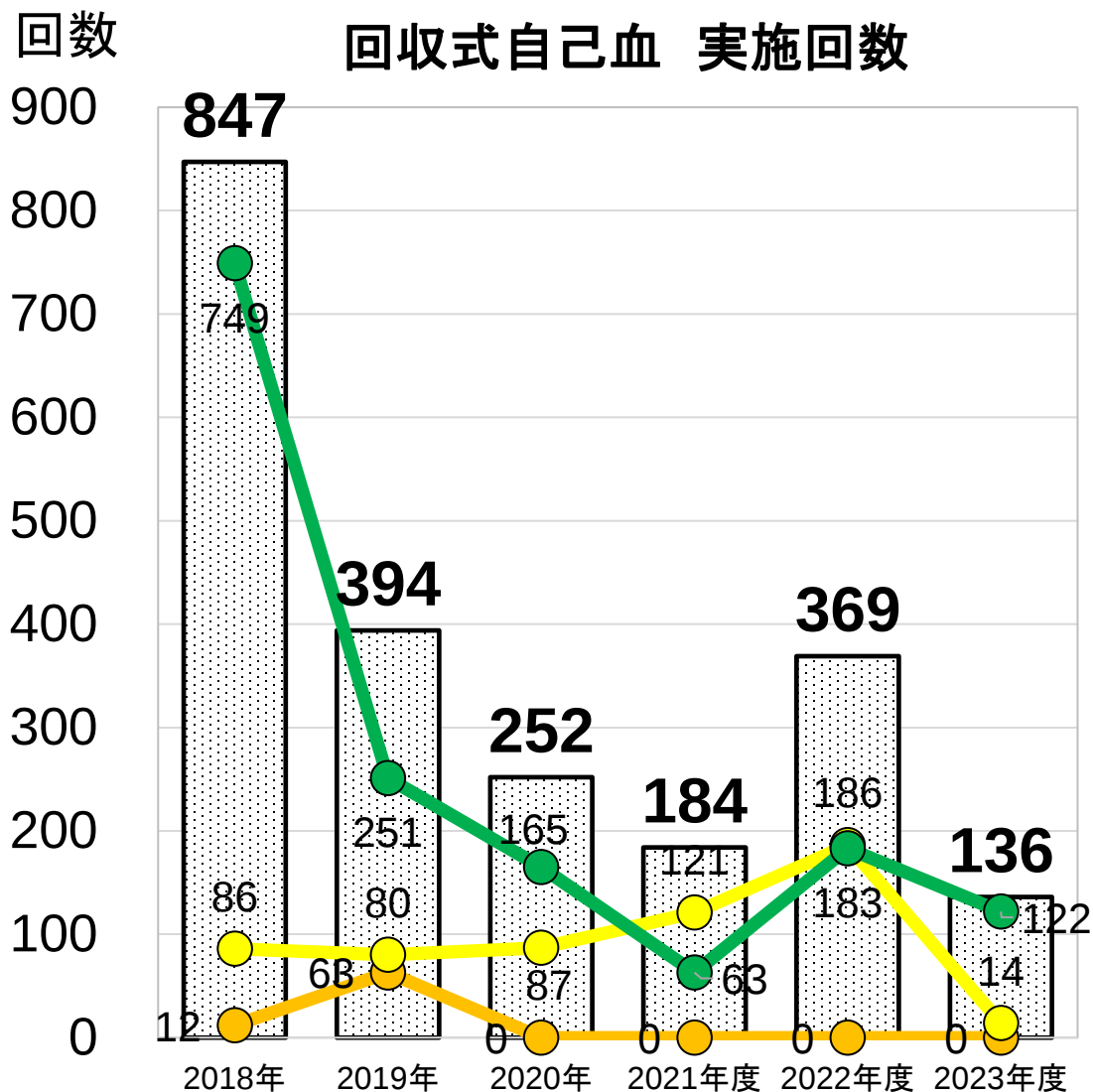
希釈式自己血輸血の実施状況について

希釈式自己血 使用量(単位)



希釈式自己血使用量全体
 99床以下
 100～299床
 300床以上

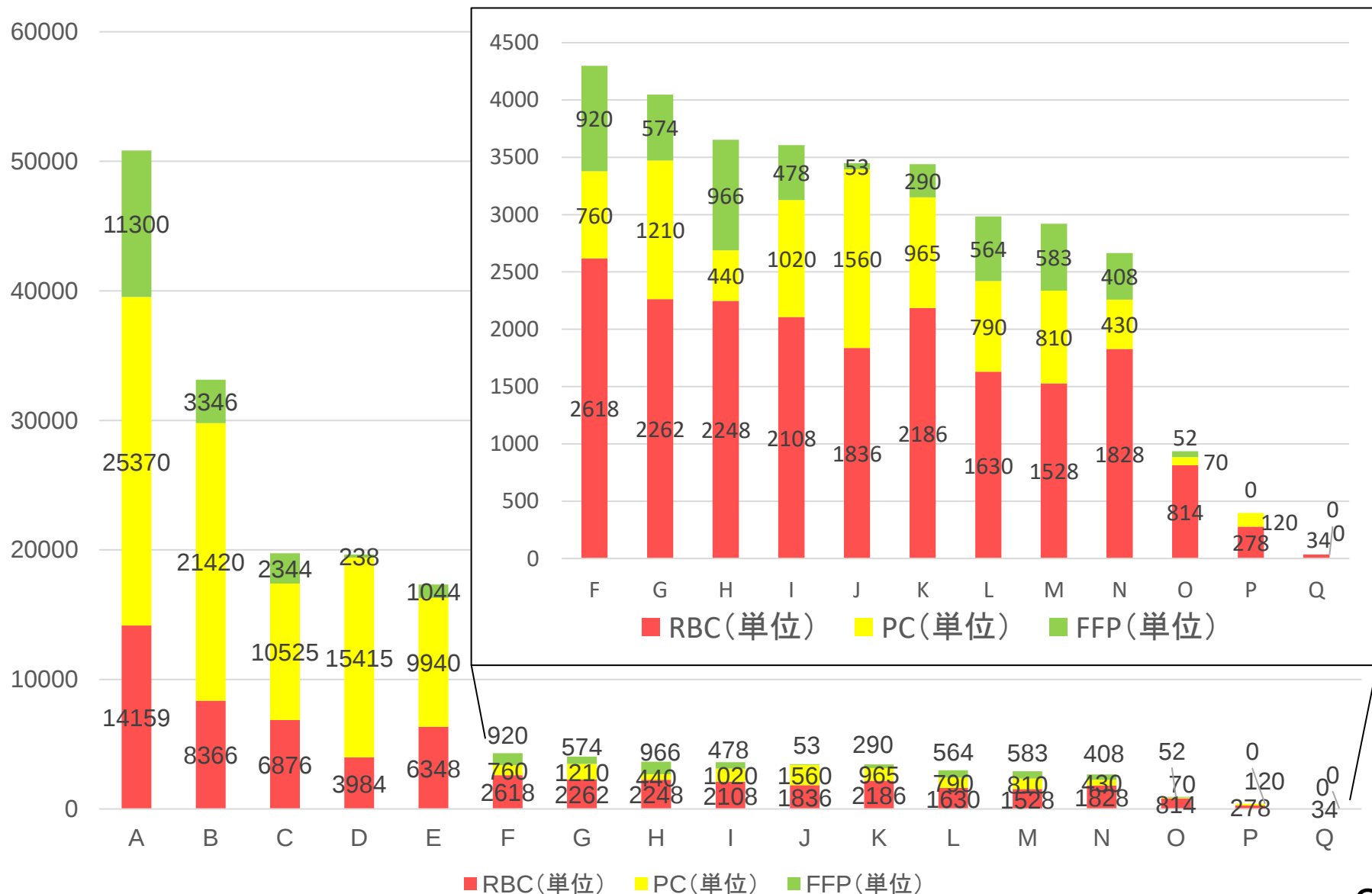
回収式自己血輸血の実施状況について



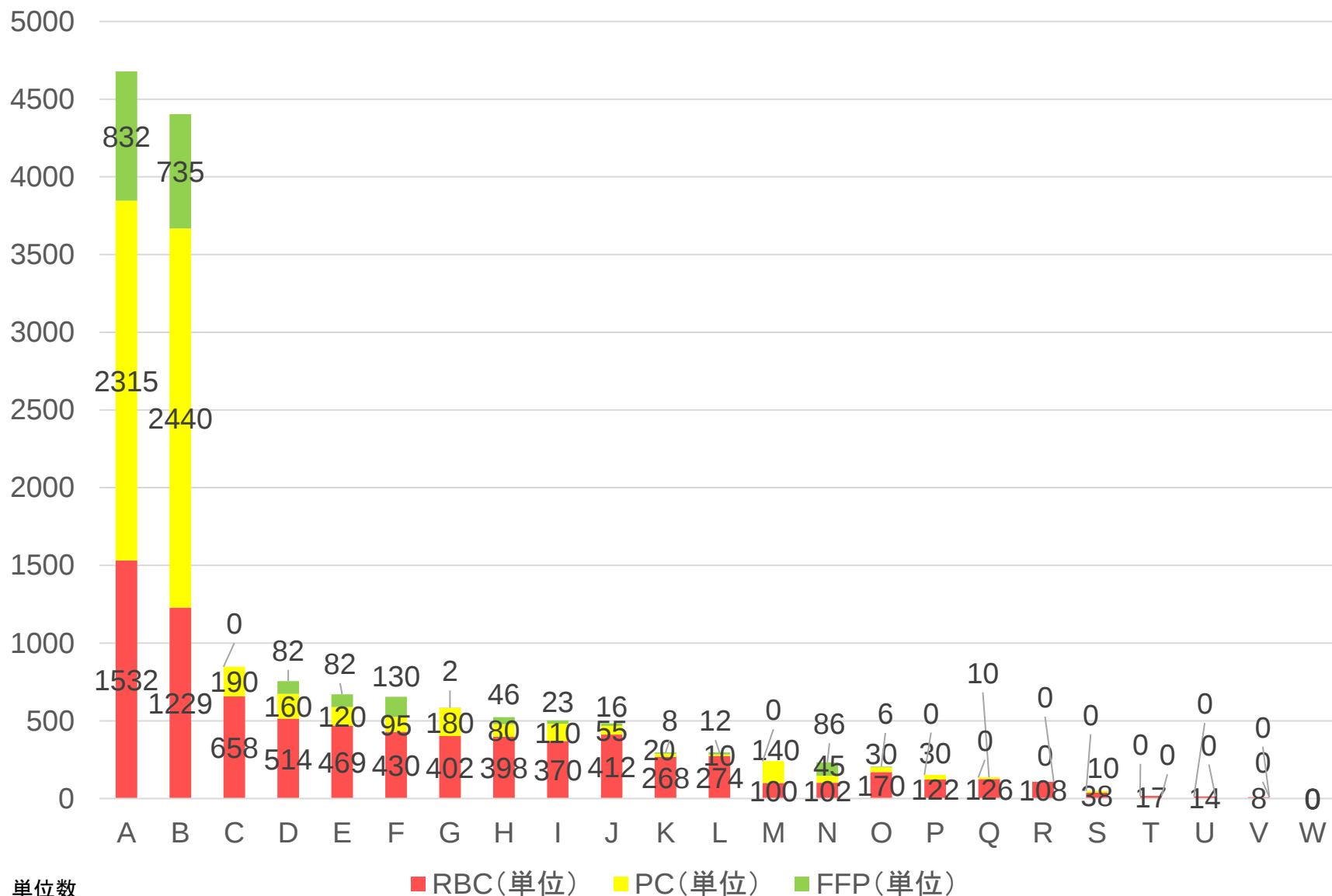
- 99床以下
- 100～299床
- 300床以上

□回収式自己血実施回数全体 ●99床以下 ●100～299床 ●300床以上

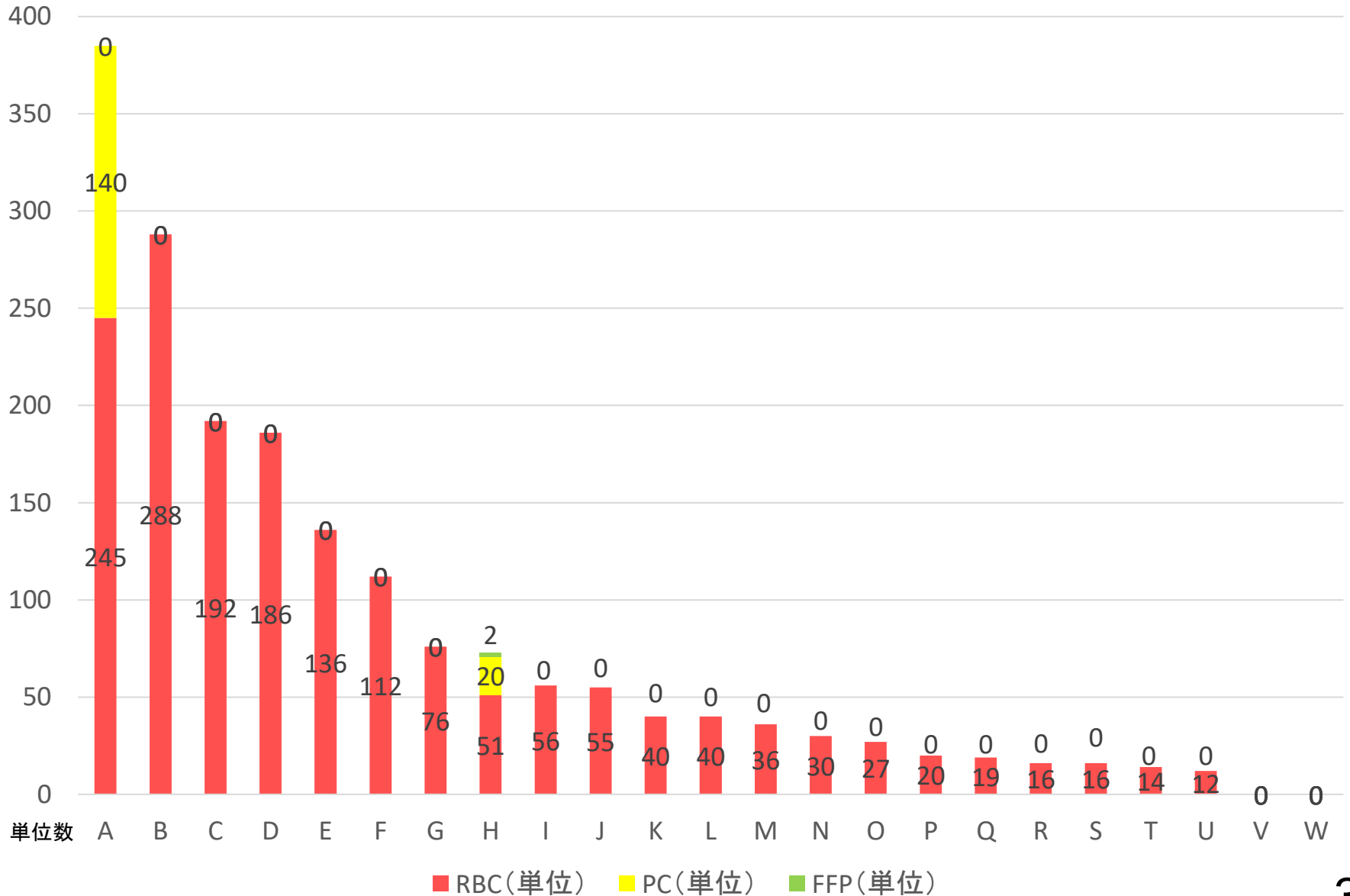
大規模施設(300床以上)使用単位数



中規模施設(100～299床)使用単位数



小規模施設(99床以下)使用単位数



まとめ

- ・インシデント発生件数は前年度と同様、夜勤帯が最も多かった。
- ・有効期限延長および血液センターの施設移転を理由に赤血球液製剤の院内在庫数を変更した施設があった。
- ・洗浄血小板の使用量が前年度より増加した。
- ・自家調整の洗浄血小板の使用量は前年度より減少した。
- ・アルブミン製剤の使用量は前年度より減少した。